

授業科目	生命倫理						
担当者	豊泉 俊大						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、基本の考えを説明する。
そのうえで、「医の倫理」をめぐる諸問題を紹介し、論点および問題の諸相を確認する。

■ 到達目標

- ・現代にいたるまでの「医の倫理」の思想の流れ、基本の考えを把握する。
- ・理学療法士、作業療法士の倫理綱領を把握する。
- ・「医の倫理」をめぐる諸問題について、その論点を把握する。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス／医療と倫理とのかかわり
 第2回 「医の倫理」小史 i / 「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」まで
 第3回 「医の倫理」小史 ii / 「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」まで
 第4回 インフォームドコンセントをめぐる倫理問題
 第5回 小児医療、高齢者医療をめぐる倫理問題
 第6回 終末期医療をめぐる倫理問題
 第7回 倫理原則の衝突／モラルディレンマにどう向きあう？
 第8回 試験（筆記）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	51	%	
その他・備考	コメントペーパー(7×7=) 49% 入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習、復習を問わず、参考図書にあげた書籍は、買うか、借りるかして読んでください。（下記「講義受講にあたって」を読んでください。）復習は講義プリントを見直すようにしてください。

■ 教 科 書

- 書 名：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか
 著者名：小林亜津子
 出版社：ちくまプリマー新書
-
- 書 名：マンガで学ぶ生命倫理 わたしたちに課せられた「いのち」の宿題
 著者名：児玉聡 マンガ：なつたか
 出版社：化学同人
-
- 書 名：いのちを"つくって"もいいですか？ 生命科学のジレンマを考える哲学講義
 著者名：島菌進
 出版社：NHK 出版

■ 参考図書

■ 留意事項

はじめて学ぶことで、分からないことがあるのは当然です。知らないことを恥じる必要はまったくありません。

少しでも疑問に感じたこと、知りたいとおもったことは、遠慮せずに聞いてください。どんなものであれ質問を歓迎します。

講義は考える場、問う場です。したがって、講義の不参加（スマホいじり、内職）、講義の妨害（私語）は禁じます。

■ 講義受講にあたって

この講義は、専門用語を暗記するための講義ではありません。講義期間も短く、学ぶことのできる内容もかぎられています。みなさんには、医療の現場で倫理をめぐるさまざまな問題が生じていること、みなさんの一人一人がそれに対処しなくてはならない日が必ずくること、そして、現実には起きている問題が、容易には解決することのできない困難を抱えているということを学んでもらいたいと考えています。講義の中でも、いくつかの事例を紹介しますが、大切なことは、何が問題とされているかをみずから考えること、問うことです。そのためには、たくさんの書物を読まなくてはなりません。読んだり、聞いたりしたことを日頃から友人どうして話しあうことも大切です。書物については、ひとまず参考図書①から③（もしくは、すくなくともどれかひとつ）を読んでから、講義に臨むようにしてください。

授業科目	情報処理学						
担当者	永井 文子						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

Microsoft Windows© および Microsoft Office© アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

- ・ 講義支援システム「Moodle」へのアクセス方法と課題提出方法を理解し利用できる。
- ・ PC から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。
- ・ PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・ PC (Windows) 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。
- ・ 文書作成ソフト (MicrosoftWord) を使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・ 表計算ソフトを (MicrosoftExcel) 使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・ プレゼンテーション資料作成ソフト (MicrosoftPowerPoint) を使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

■ 授業計画

第 1 回 授業概要。ブラウザの利用①。 PC キーボードのタイピング練習方法。《遠隔授業》

第 2 回 Windows10画面構成と基本操作確認。

ファイル管理。(フォルダ及びファイル作成と Moodle からのファイル取得と Moodle への提出の練習。) ブラウザの利用

②。G-mail における添付ファイルの扱い。Google ドライブ (クラウド) へのファイル保存操作。情報倫理 (ネット・電子メール利用の基礎知識とマナー)。《遠隔授業》

第 3 回 文書作成①

Word 上での日本語入力 (ローマ字入力と各種変換操作)。

Word 画面構成と基本操作。新規文書作成と既存文書更新。ファイル保存と管理。《遠隔授業》

第 4 回 文書作成②

Word 文書における書式の単位 (ページ全体、段落、文字) とそれぞれの設定。

表の作成と編集 (入力と加工)。

第 5 回 文書作成③

Word 文書におけるオブジェクト (図形、イラスト、画像) の挿入と編集 (加工)。文字列との位置関係 (確認と変更)

第 6 回 文書作成課題 (Word 課題小テスト)

作成・提出

- 第7回 Word 課題（小テスト）レビュー
表計算①
Excel2019画面確認。操作単位（ブック>シート>セル）の把握とデータ入力。
計算式の用途とデータ表示の状態。
- 第8回 表計算②（関数基本）
Excel 集計表における基本計算式（合計・平均など）の設定。
数式内セル参照（相対参照・絶対参照）
表の体裁と書式設定（罫線、セルの色、セル内文字配置等）
- 第9回 表計算③（関数実用）
実用関数の紹介と利用。
- 第10回 表計算④
データベース機能（一定量データの整理・集計・分析機能）の基本操作
グラフ機能（表データを元にグラフを描画・加工）の基本操作
- 第11回 表計算課題（Excel 課題小テスト）
作成・提出
- 第12回 Excel 課題（小テスト）レビュー
プレゼンテーション①
PowerPoint 画面紹介、操作単位（ファイル>スライド>プレースホルダ・オブジェクト）紹介
プレースホルダへのテキスト入力と段落書式
- 第13回 プレゼンテーション②
スライドへのオブジェクトの挿入と加工
プレゼンテーションの効果付加機能（スライド切替・アニメーション設定・スライドショー）
- 第14回 プレゼンテーション③
Office 連携（Excel グラフや表を PowerPoint スライドで利用する操作と形式）
総合演習準備（総復習）
- 第15回 総合演習課題（修了課題）
作成・提出

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	<p>【実技試験】60%：実技による課題提出とする。</p> <p>小テストも同じく実技による課題提出で、期間内に2回（Word、Excel 各1回）実施する。さらに、講義後の（操作済み）ファイル提出を8～10回実施し提出状況や内容を最終評価に加えるものとする。入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。</p>			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. PC キーボードのタイピングスキルを各自時間と環境を工夫してトレーニングすることを時間外の学習として必須とする。
期初に紹介する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。
2. 講義内で使用したファイルの保存先は、学校発行の Google アカウント（e-mail アドレスに付随）で利用できるクラウド上を原則とするが、外部メディア（USB メモリ等）に保存したい場合は自身で用意して持参すること。（各自が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

■ 教科書

書名：Office2019で学ぶコンピュータリテラシー（ISBN：978-4-407-34889-7）

著者名：小野目如快

出版社：実教出版

■ 参考図書

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。
また、遠隔授業に伴い、実施項目は前後することがある。

■ 講義受講にあたって

授業科目	医療情報学						
担当者	芦田信之						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	選択	形式	

■ 内 容

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解しその将来像を見据えて活動できる医療人となることを目的とし、情報の利活用のスキルを身につける。そのための方法として、コンピュータの歴史から今後AIが導入されることをみこしたコンピュータサイエンスを学ぶ。また、データ処理技術や情報倫理を身につけることを目指す。

■ 到達目標

医療におけるコンピュータの利活用のスキルを身につける。
情報倫理や情報検索などネットワーク社会への適応ができる

■ 授業計画

- 第1回 アナログからデジタルへ コンピュータおよび周辺機器の発展
- 第2回 ネットワーク社会の情報倫理とセキュリティ
- 第3回 医療における情報の取り扱い（個人情報・患者の権利）
- 第4回 医療情報の真偽（ニセ医学情報の氾濫）
- 第5回 医療における情報の取り扱い（電子カルテと大規模データベース）
- 第6回 エクセルによるデータ処理例（住所録データベース その1）
- 第7回 エクセルによるデータ処理例（住所録データベース その2）
- 第8回 人体の構造と機能
- 第9回 医療情報とリハビリテーション
- 第10回 診断技術（検体検査・生理学的検査・画像検査）
- 第11回 エクセルによる統計処理の基礎（記述統計）
- 第12回 病院職員の血液検査データ（相関分析）
- 第13回 病院職員の血液検査データ（検定）
- 第14回 医療情報と福祉工学
- 第15回 医療情報（現在と近未来）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	30	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	40	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業教材は本学の講義支援システム Moodle にて事前に提供するので、授業前に閲覧し、授業後には各回のまとめをおこなうこと
不要

■ 教科書

--

■ 参考図書

書名：統計学への招待 (ISBN 9784419065133)

著者名：日本経営数学会

出版社：税務経理協会

書名：医療情報 医療情報システム編 (ISBN 9784884123871)

著者名：医療情報学会

出版社：篠原出版新社

書名：医療情報システム入門 (ISBN 9784789418942)

著者名：保健医療福祉システム工業会

出版社：社会保険研究所

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

講義演習に当たってはPC室にておこなう

授業科目	物理学						
担当者	石井田 啓太・富永 岳						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	PT 必修 / OT 選択		

■ 内 容

症状を科学的に分析し、的確な治療法を決定するのに必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。特に、身体運動の基本を扱う力学を中心に扱う。

■ 到達目標

多様な症状に関係する物理の法則を見つけ出すことができる能力、更に医療法を改良したり、創造したりすることができる。また、能力の基となる知識を修得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 基本計算・基礎数学の確認（リメディアル理系の内容確認）
 第2回 基礎数学の確認
 第3回 力とは 力の合成と分解
 第4回 物体にはたらく力
 第5回 質点にはたらく力のつりあい①
 第6回 質点にはたらく力のつりあい②
 第7回 第1回～第6回の内容について総復習
 第8回 第1回小テスト 解説も
 第9回 実験授業
 第10回 力のモーメントとは 力のモーメントの基本計算
 第11回 力のモーメントのつりあい
 第12回 力のモーメントに関する種々の問題
 第13回 日常における物理学①
 第14回 日常における物理学②
 第15回 第9回～第15回の内容について総復習・小テスト

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習：講義内容の理解を深める為の演習プリントを完成させる
 予習は課さないなので復習に時間を割きましょう。

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

書名：不要

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

運動学や治療学の基礎となる科目であるので、十分理解できるように取り組むこと。

授業科目	生物学						
担当者	林 研						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

人体を理解するための、より基礎的な知識として、生物一般の構造と機能を学びます。前半では生物を理解するために最も重要な「細胞」と「遺伝子」について解説します。後半では、それを踏まえた上で動物の身体の様々なはたらきを見ていきます。日常的な身体のはたらきが、細胞や遺伝子のレベルとそのままつながっていることを理解してください。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

生物に共通する仕組みを理解するとともに、生物学の基礎的な概念や用語をしっかりと身に着けることが目標となります。

細胞や遺伝子について、またその生体内での具体的なはたらきについて理解し、それに関わる概念を、単に暗記するだけではなく、意味を理解した上で使いこなしていけるようになります。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、生物とは何か《遠隔授業》
- 第2回 細胞の構造《遠隔授業》
- 第3回 細胞分裂と発生《遠隔授業》
- 第4回 細胞の分化と幹細胞《遠隔授業》
- 第5回 神経・筋・骨《遠隔授業》
- 第6回 遺伝
- 第7回 遺伝子の発現
- 第8回 ゲノム科学
- 第9回 酵素
- 第10回 エネルギー代謝
- 第11回 血液と免疫
- 第12回 内分泌系と自律神経系
- 第13回 恒常性の調節
- 第14回 刺激の受容
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生物学の様々な専門用語を理解して覚える必要があるため、講義後の復習が重要となります。復習問題を毎回配布するので、次の週までに解いておき、次の講義で確認してください。

■ 教科書

書名：生物学 ヒトと環境の生命科学
著者名：川崎祥二・古庄律 編著
出版社：建帛社

■ 参考図書

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

教科書に沿って講義を行うことはしませんが、主に教科書に基づいた内容を扱うので、予習復習には大いに役立ちます。各自でよく参照しながら学んでください。

授業科目	医療英語						
担当者	近藤 未奈						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 内 容

医療現場のグローバル化が進む中、外国人患者に満足な治療を提供するため、あるいは海外のリハビリについての情報収集や国際学会への参加のためなど、英語が必要になる機会はいっそう増えていると言えます。この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、一見複雑に見える専門用語の単語の成り立ちを学び、理解を深めます。さらに、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習し、ある程度の長さの英文や、英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。以上を通じて、理学療法士・作業療法士としての知識や技術を伸ばすために必要不可欠な国際的な学術論文を理解する土台を養います。

■ 到達目標

医療英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英語文献を読むための必須文法項目(1)
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英語文献を読むための必須文法項目(2)
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英語文献を読むための必須文法項目(3)
- 第10回 英文読解(1) 症例を読む その1
- 第11回 英語論文の基礎知識(1) 論文・抄録の構造と読み方
- 第12回 英文読解(2) 論文の抄録(アブストラクト)を読む
- 第13回 英語論文の基礎知識(2) 英語データベースの利用方法
- 第14回 英文読解(3) カルテを読む
- 第15回 英文読解(4) 症例を読む その2

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート	◎	10	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	受講態度(演習問題の解答発表・その他授業に臨む態度)を30%として評価します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してください。

■ 教科書

書名：音声と例文でおぼえる基本医療単語1000
著者名：笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき
出版社：南雲堂

■ 参考図書

書名：ポケット医学英和辞典
著者名：泉 孝英
出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。出題内容や実施スケジュールなど、詳細については初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。辞書アプリの利用を希望する場合にはルールを設けるので、初回授業で説明を受けてください。毎回配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合は必ず初回から出席してください。

■ 講義受講にあたって

1年次前期「英語コミュニケーション」を踏まえ、さらに応用、発展を目指す内容です。

授業科目	文学						
担当者	小林 信						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画・形態の説明）
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選び記述・発表。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 (ex) 石川啄木の文学について
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂，呼子と口笛，時代閉塞の現状」
(内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。) 討論（意見の発表）
- 第5回 (1) 森鷗外の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森？外の作品を読む「礼儀小言，当流比較言語学，遺言」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。) 討論。
- 第7回 (2) 夏目漱石の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化，イズムの功過，私の個人主義」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く)、 討論。
- 第9回 (3) 芥川龍之介の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友へ送る手記，或阿呆の一生，点鬼簿」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く)、 討論。
- 第11回 (4) 永井荷風の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞，新婦朝者日記，断腸亭日乗」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く)、 討論。
- 第13回 (5) 坂口安吾の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論，続墮落論，日本文化私観」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く)、 討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	レジュメ発表 50% 提出課題 50%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関係する作家の作品（事前に配布）を読んで授業に臨むこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

取り上げられている作家の作品を出来るだけ読んでおくこと

授業科目	自然科学概論						
担当者	林 研						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

現代医療は科学であり、医療にたずさわるには、科学的なものの考え方や基本的な科学知識を身につけておくことが必要です。この科目では科学の基礎を押さえるために、①科学とは何かを歴史と哲学から学ぶ、②高校理科の重要なところを改めて確認する、③現代科学の様々な分野を見渡して多様なトピックを知る、という3つの角度からアプローチします。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につけることが目標となります。科学の各分野の知識を整理し、何か不明なことがあればすぐ調べて理解できる素地が作られることとなります。また、特にひとつのテーマについてしっかり考えてまとめる能力を身につけます。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、科学の歴史《遠隔授業》
- 第2回 科学の方法《遠隔授業》
- 第3回 ニュートンと力学《遠隔授業》
- 第4回 回転運動と仕事《遠隔授業》
- 第5回 宇宙と物理《遠隔授業》
- 第6回 物質
- 第7回 物質の状態
- 第8回 物質の変化
- 第9回 エネルギーと環境
- 第10回 進化と遺伝子
- 第11回 地球科学
- 第12回 人体理解の歴史
- 第13回 脳科学
- 第14回 シミュレーションの科学第15回 科学
と社会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

用語を覚える必要はありませんが、講義がどういう内容であったのかを振り返り、理解し直す復習を行ってください。物理や化学については復習問題を配布する場合がありますので、そのときは各自で取り組んでください。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

全体を理解することも重要ですが、試験ではひとつのテーマについて論述してもらうので、関心を持ったテーマがあればニュースや本を参照して理解を深めておくといいでしょう。

授業科目	生命倫理						
担当者	豊泉 俊大						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、基本の考えを説明する。
そのうえで、「医の倫理」をめぐる諸問題を紹介し、論点および問題の諸相を確認する。

■ 到達目標

- ・現代にいたるまでの「医の倫理」の思想の流れ、基本の考えを把握する。
- ・理学療法士、作業療法士の倫理綱領を把握する。
- ・「医の倫理」をめぐる諸問題について、その論点を把握する。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス／医療と倫理とのかかわり
 第2回 「医の倫理」小史 i / 「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」まで
 第3回 「医の倫理」小史 ii / 「ヒポクラテスの誓い」から「リスボン宣言」まで
 第4回 インフォームドコンセントをめぐる倫理問題
 第5回 小児医療、高齢者医療をめぐる倫理問題
 第6回 終末期医療をめぐる倫理問題
 第7回 倫理原則の衝突／モラルディレンマにどう向きあう？
 第8回 試験（筆記）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	51	%	
その他・備考	コメントペーパー（7×7⇒）49%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習、復習を問わず、参考図書にあげた書籍は、買うか、借りるかして読んでください。（下記「講義受講にあたって」を読んでください。）復習は講義プリントを見直すようにしてください。

■ 教科書

- 書 名：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか
 著者名：小林亜津子
 出版社：ちくまプリマー新書
-
- 書 名：マンガで学ぶ生命倫理 わたしたちに課せられた「いのち」の宿題
 著者名：児玉聡 マンガ：なつたか
 出版社：化学同人
-
- 書 名：いのちを"つくって"もいいですか？ 生命科学のジレンマを考える哲学講義
 著者名：島菌進
 出版社：NHK 出版

■ 参考図書

■ 留意事項

はじめて学ぶことで、分からないことがあるのは当然です。知らないことを恥じる必要はまったくありません。

少しでも疑問に感じたこと、知りたいとおもったことは、遠慮せずに聞いてください。どんなものであれ質問を歓迎します。

講義は考える場、問う場です。したがって、講義の不参加（スマホいじり、内職）、講義の妨害（私語）は禁じます。

■ 講義受講にあたって

この講義は、専門用語を暗記するための講義ではありません。講義期間も短く、学ぶことのできる内容もかぎられています。みなさんには、医療の現場で倫理をめぐるさまざまな問題が生じていること、みなさんの一人一人がそれに対処しなくてはならない日が必ずくること、そして、現実には起きている問題が、容易には解決することのできない困難を抱えているということを学んでもらいたいと考えています。講義の中でも、いくつかの事例を紹介しますが、大切なことは、何が問題とされているかをみずから考えること、問うことです。そのためには、たくさんの書物を読まなくてはなりません。読んだり、聞いたりしたことを日頃から友人どうして話しあうことも大切です。書物については、ひとまず参考図書①から③（もしくは、すくなくともどれかひとつ）を読んでから、講義に臨むようにしてください。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学 I						
担当者	山口 忍 (実務経験者)						
実務経験者の概要	35年以上の間、広島大学附属病院・京都大学附属病院の耳鼻咽喉科等にて臨床活動を経験						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

心理検査を実施し、現状の自分の傾向を把握する。メタ認知を用いて、現状のみならず様々な状況にある自分の在り方を検証してみる。その上で、医療系 OSCE にそって、挨拶や基本の姿勢、笑顔や適切な対人距離などを体感しながら学ぶ。

■ 到達目標

「自分との対話」を心理検査などを用いて行い、現状の自分を知り理解する。
そして、リハビリテーションの現場でコミュニケーションをとるためのスキルについて、医療系 OSCE にそって身に着ける努力をする。

■ 授業計画

- 第1回 挨拶と笑顔の意味 「話す」と「聞く」の仕組み
- 第2回 仕事における「聞く」を演習する
- 第3回 自分との対話：心理検査を用いて メタ認知を学ぶ
- 第4回 コミュニケーションにおけるポジショニング
- 第5回 コミュニケーション障害を疑似体験
- 第6回 臨床における自分の在り方について
- 第7回 人間の本能とコミュニケーション
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションは日々の積み重ね、です。一日のうち、挨拶をする際の自分や、相手に声をかける自分を意識し、明るく元気を心掛けてみましょう。また対人援助職として「聞く」や「聴く」ができるように、やってみましょう。それらがこの講義の復習になります。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

演習は積極的に行う事。臨床では、対象者の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とでも、明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組むこと

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ						
担当者	山口 忍 (実務経験者)						
実務経験者の概要	35年以上の間、広島大学附属病院・京都大学附属病院の耳鼻咽喉科等にて臨床活動を経験						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

対象者の深い気持ちや希望を正しく受け止めるために「傾聴」の意味と作用を演習で学ぶ。声をかけているつもりで相手に届いていないことを実感し、相手の眼を見ることの緊張感と顔を見るコツを学ぶ。ヒトの基本的欲求について知るために、難病を抱えた子供の親の手記を読み討論する。多職種の集ううりハビリ場面における1対1の人間関係と、コミュニケーションの基本姿勢を学ぶ。障害を持つ方々、ご家族の心理を大枠で理解する。

■ 到達目標

「傾聴」のためのスキルを知る。

相手に声が届くように声をかけることができる。

人間の基本的欲求を理解し、リハビリの場面で出会う対象者の方やご家族の深い気持ち、希望があることを知る。

障害とは何で、それを受けた体をどう受容していくかを知る。

■ 授業計画

第1回 挨拶・笑顔と自己紹介の練習

第2回 「聞く」と「聴く」の違いを学ぶ 基礎ゼミで学んだことを生かして

第3回 自分との対話：心理検査を用いて 前回実施分との変化を確認する

第4回 コミュニケーションにおけるポジショニングの演習

第5回 やまびこのレッスン

第6回 医療関係者に言われて嫌だった言葉

第7回 ◯ グループでまとめ発表する（人間の基本的欲求と照らして）

第8回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

コミュニケーションは日々の積み重ね、です。一日のうち、挨拶をする際の自分や、相手に声をかける自分を意識し、明るく元気を心掛けてみましょう。また対人援助職として「聞く」や「聴く」ができるように、やってみましょう。それらがこの講義の復習になります。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

--

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

演習は積極的に行う事。臨床では、対象者の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とでも、明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組むこと

授業科目	国語表現学 (レポート作成法)						
担当者	岡崎 昌宏						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 必修 / OT 選択		

■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 概説—正確な表現の重要性《遠隔授業》
- 第2回 文章を書くための知識 (1) —表記など《遠隔授業》
- 第3回 文章を書くための知識 (2) —原稿用紙の使い方、段落など《遠隔授業》
- 第4回 正確な文章のために (1) —説明不足の文をなくす《遠隔授業》
- 第5回 正確な文章のために (2) —過度な説明、重複説明をなくす《遠隔授業》
- 第6回 正確な文章のために (3) —長くなってしまった文を、短くする《遠隔授業》
- 第7回 正確な文章のために (4) —句読点への意識を高める、語彙力を高める《遠隔授業》
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ《遠隔授業》
- 第9回 レポートを書く (1) —様々な事実を集める《遠隔授業》
- 第10回 レポートを書く (2) —意見の方向を定める《遠隔授業》
- 第11回 レポートを書く (3) —自説の明確な根拠を考える《遠隔授業》
- 第12回 レポートを書く (4) —基本的な展開方法を知る《遠隔授業》
- 第13回 レポートを書く (5) —レポートを書き、推敲する《遠隔授業》
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める《遠隔授業》
- 第15回 まとめ《遠隔授業》

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
レポート				
小テスト				
その他・備考	遠隔授業での課題提出 100%			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	心理学（人間関係学、教育心理学を含む）						
担当者	鈴木暁子（実務経験者）						
実務経験者の概要	大学病院や精神科病院で臨床心理士としての勤務経験を持つ。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり一部を遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 心理学の考え方①《遠隔授業》
- 第2回 心理学の考え方② 《遠隔授業》
- 第3回 ト라우マについて《遠隔授業》
- 第4回 人の性格①
- 第5回 人の性格②
- 第6回 記憶と知能
- 第7回 学習①
- 第8回 学習②
- 第9回 動機づけと情動①
- 第10回 動機づけと情動②
- 第11回 社会心理学入門①
- 第12回 社会心理学入門②
- 第13回 人と音楽①
- 第14回 人と音楽②
- 第15回 グループワーク

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講師の指示に従ってください。

■ 教 科 書

書 名：改訂版 はじめて出会う心理学
 著者名：長谷川寿一 他
 出版社：有斐閣アルマ

■ 参考図書

書名：心理学概論

著者名：山内弘継・橋本宰監修

出版社：ナカニシヤ出版

■ 留意事項

配布資料が多いので整理方法をよく考えて下さい。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	英語コミュニケーション（英会話初級）						
担当者	近藤 未奈						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義 形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

社会全体のグローバル化が進む中、日本の医療現場でも、外国人の患者やその家族と英語でコミュニケーションを取る機会は増え、今後もますます増えていくと予想されます。この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。基礎的な英文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指します。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
イントロダクション：医療現場で英語を使えることの意義 / 医療の英語はどのようなものかを知る《遠隔授業》
- 第2回 Meeting Patients「患者登録と生活習慣アンケートをする」その1《遠隔授業》
- 第3回 Meeting Patients「患者登録と生活習慣アンケートをする」その2《遠隔授業》
- 第4回 Taking a Medical History「病歴および健康状態を把握する」その1
- 第5回 Taking a Medical History「病歴および健康状態を把握する」その2
- 第6回 Assessing Patients' Symptoms「病状や症状をアセスメントする」
- 第7回 Taking Vital Signs「バイタルサインを確認する」
- 第8回 Conducting Medical Examinations「検査の注意や指示をする」
- 第9回 Directions「道案内・建物の中のご案内の英語」
- 第10回 Assessing Pain「疾病・負傷による痛みをアセスメントする」
- 第11回 Advising about Medication「処方された薬についてアドバイスする」
- 第12回 Improving Patients' Mobility「体の機能回復を介助・援助する」その1
- 第13回 Improving Patients' Mobility「体の機能回復を介助・援助する」その2
- 第14回 Appointments「病院の予約・日時の表現」
- 第15回 Caring for Inpatients「入院患者のケアをする」

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	受講態度（演習問題の解答発表・ロールプレイ練習への取り組み・その他授業に臨む態度）を40%として評価します。入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

--

■ 教科書

書名：Caring for People (医療分野で働くためのコミュニケーションコース)
著者名：黛美智子, 宮津多美子, Philip Hinder, 志田京子, 杉田雅子, 山下巖
出版社：センゲージ ラーニング

■ 参考図書

書名：医療英会話キーワード辞典
著者名：森島祐子, 仁木久恵, Flaminia Miyamasu
出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。出題内容や実施スケジュールなど、詳細については初回授業で説明します。授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。辞書アプリの利用を希望する場合にはルールを設けるので、初回授業で説明を受けてください。配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

1 年次後期「医療英語」へとつながる内容です。

授業科目	基礎ゼミナール						
担当者	専任教員・他					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	演習
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 内 容

自分自身の療法士として将来像を具体化し、求められる態度、療法士としてのコミュニケーション技能、対象者の理解、リスク管理の概要、プレゼンテーション方法、学習への態度と学習方法などについて、講義とグループ活動を通して学ぶ。

■ 到達目標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えをつくることができる
2. 療法士として求められる態度・知識・技能を知り、一歩でも近づくための方向付けを行うことができる
3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を収集し整理する力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを修得する
 - ①授業をしっかりと聞いてノートがとれる
 - ②時間内で学んだことを図やテーマでまとめることができる
 - ③ディスカッションをして集団で考えをまとめることができる

■ 授業計画

- 第1回 プレイスメントテスト（これまでの学習状況を確認しよう）
- 第2回 オリエンテーション（基礎ゼミについて、大学生活に関わる内容について、など）
- 第3回 ソーシャルネットサービスの利用時のマナーと防犯について学ぼう
- 第4回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第5回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第6回 現代社会と基礎経済を学ぼう
- 第7回 先輩セラピストの話を聞いてみよう
- 第8回 先輩セラピストの話を聞いてみよう（ディスカッション・まとめ）
- 第9回 ハラスメントについて学ぼう
- 第10回 療法士としてのリスク管理について学ぼう①
- 第11回 療法士としてのリスク管理について学ぼう②（一次救急救命法 AED の使用方法）
- 第12回 障がいのある当事者の話 1
- 第13回 障がいのある当事者の話 1（ディスカッション・まとめ）
- 第14回 障がいのある当事者の話 2
- 第15回 障がいのある当事者の話 2（ディスカッション・まとめ）
- 第16回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第17回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第18回 興味あるテーマについて調べよう
- 第19回 興味あるテーマについて調べよう
- 第20回 障がいのある当事者の話 3
- 第21回 障がいのある当事者の話 3（ディスカッション・まとめ）
- 第22回 障がいのある当事者の話 4
- 第23回 障がいのある当事者の話 4（ディスカッション・まとめ）
- 第24回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第25回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第26回 人権研修

第27回 人権研修（ディスカッション・まとめ）

第28回 国家試験問題を解いてみよう / 目指すセラピスト像となすべきこと ディスカッション

第29回 目指すセラピスト像となすべきこと 振り返りとディスカッション

第30回 目指すセラピスト像となすべきこと 振り返りとディスカッション

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
レポートなど提出課題	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	ノートの内容、整理された図やテーマの内容、ディスカッションへの参加態度等を毎回10点満点で採点し、最終評価とする。 そのため、欠席するとその日の成績が0点となるため注意すること。 また、基礎ゼミナールの資料集や、講義に必要な資料は持参すること。不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料の準備不足など）は減点対象である。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「次回の課題」が提示された場合には、取り組んで授業に臨むこと

特に、ディスカッションの前には、自分に考えをまとめておく（各回考えておくべき事項を伝えます）

各授業終了後には、リアクションペーパーの作成により、授業内容を振り返る

■ 教科書

不要

■ 参考図書

■ 留意事項

積極的に参加し、取り組みましょう。講師の都合により日程を変更する可能性があります。

授業に欠席した場合は、その日の評価は0点となります。

■ 講義受講にあたって

授業科目	障がい者スポーツ入門						
担当者	島 雅人 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者)、足立一 (実務経験者)、山田隆人 (実務経験者)						(オムニバス)
実務経験者の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・島 雅人：日本パラリンピック委員会 スポーツ医・科学・情報サポート事業 バイオメカニクス担当 (公財) 日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員 (2015～) スペシャルオリンピックス日本 認定コーチ (MATP 2010～、ユニファイドサッカー 2016～)、スポーツコーチ (2017～)、ローカルトレーナー (2018～) ・相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 ・足立一：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) ・山田隆人：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) 						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	自由		

■ 内 容

障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて、講義と実技実習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障がいに応じたスポーツの工夫や、障がい者との交流をはかり、障がい者スポーツ指導者としての導入を図る。本講義を履修することで、地域の障がい者で初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。

■ 到達目標

1. 障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて概説できる。
2. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる。
3. 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解できる。
4. 日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる。
5. 障がい者との交流をはかり、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できる。

■ 授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ 1 (0.5)、障がい者スポーツの意義と理念 1 (1.0)：島 (実務経験者) |
| 第2回 | 障がい者スポーツの意義と理念 (1.0)、文化としてのスポーツ (0.5)：島 (実務経験者) |
| 第3回 | 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (1.5)：足立 (実務経験者) |
| 第4回 | 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (0.5)：足立 (実務経験者)
(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度 (1.0)：足立 (実務経験者) |
| 第5回 | 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1.0) 安全管理 1 (0.5)：山田 (実務経験者) |
| 第6回 | 安全管理 2 (0.5) ボランティア論 1 (1.0)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者) |
| 第7回 | ボランティア論 2 (1.0)、スポーツと栄養 (0.5)：相原 (実務経験者) |
| 第8回 | スポーツと心理 (1.5)：足立 (実務経験者) |
| 第9回 | 障がいの理解とスポーツ (身体、知的、精神、視覚など) (1.5)：山田 (実務経験者) |
| 第10回 | 障がい者のスポーツ指導における留意点 1 (1.5)：山田 (実務経験者) |
| 第11回 | 全国障害者スポーツ大会の概要 (1.0) 島 (実務経験者)
全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (0.5) 島 (実務経験者) |
| 第12回 | 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者) |
| 第13回 | 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者) |
| 第14回 | 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)：島・相原・足立 (実務経験者)・山田 (実務経験者) |
| 第15回 | 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)：島・相原・足立 (実務経験者)・山田 (実務経験者) |

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>

著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編

出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書名：よくわかる障がい者スポーツ

著者名：藤田紀昭

出版社：PHP

書名：みんなちがってそれでいい

著者名：宮崎 恵理 重本 沙絵

出版社：ポプラ社

書名：スポーツでひろげる国際理解 5 知ろう・やってみよう障がい者スポーツ

著者名：中西 哲生

出版社：文溪堂

書名：パラリンピックとある医師の挑戦

著者名：三枝義浩（著）

出版社：講談社

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

授業科目	リハビリテーション概論（地域包括ケアシステムの理解を含む）						
担当者	井上悟（実務経験者）						
実務経験者の概要	担当者は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院におけるリハビリテーション医療の実験の経験がある。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

リハビリという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。通常、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域を示しているに過ぎない。リハビリテーション本来の理念を歴史的背景を含め紹介する。

■ 到達目標

リハビリテーション（rehabilitation）を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。

■ 授業計画注 → 遠隔授業期間中は授業内容およびその順番も入れ替えます。またムードル上で連絡します。

- 第1回 教科書：第1章の①リハビリテーションの概念、②リハビリテーションの語源《遠隔授業》
- 第2回 第1章の③リハビリテーションの理念、④リハビリテーションの定義《遠隔授業》
- 第3回 第2章の①健康・疾病・障害、②疾病と障害の分類（国際障害分類、国際生活機能分類）《遠隔授業》
- 第4回 第2章の③障害を起こす疾病、④障害へのアプローチ《遠隔授業》
- 第5回 第2章の⑤廃用症候群（生活不活発病）、誤用症候群、過用症候群《遠隔授業》
- 第6回 第3章：障害の心理的・社会的視点（はじめに～①～⑤障害受容まで）《遠隔授業》
- 第7回 第6章：リハビリテーションの諸段階1：医学的・職業的リハビリテーション《遠隔授業》
- 第8回 リハビリテーションの諸段階1：医学的・職業的リハビリテーション
- 第9回 第6章：リハビリテーションの諸段階2：社会的・教育的リハビリテーション《遠隔授業》
- 第10回 医療とリハビリテーションに関わる諸問題1
- 第11回 医療とリハビリテーションに関わる諸問題2
- 第12回 チーム・アプローチ（リハ専門職の役割、評価と記録の重要性）
- 第13回 ADL・QOLの概念、地域包括ケアシステム（地域リハビリテーション含）
- 第14回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律1
- 第15回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律2

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	遠隔授業増加のため修正
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考	※正当な理由がない欠席や遅刻・等については減点とする（30%以内）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書名：リハビリテーション概論（第3版）
著者名：上好秋孝・田島文博
出版社：永井書店，2014年（最新版で）,3000円税別

■ 参考図書

■ 留意事項

注：新型コロナ対策のため、前半は遠隔授業となりますが、本講義は教科書中心に進めるため、授業時間には、必ず教科書を手元に用意してください。教科書を読んでもらう（黙読）ので、絶対に必要です。

■ 講義受講にあたって

課題としてごく簡単なレポートを授業時間中に書いてもらいます。今後、ムードルのリハ概論のページに随時課題掲載します。

授業科目	リハビリテーション医学						
担当者	東郷 一行						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することです。主な対象となる疾患を紹介し、どのように目的を達成していくかを受講者とともに考えます。

■ 到達目標

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種 of 専門家を目指すための明確な動機付けができることを期待しています。

■ 授業計画

- 第1回 障害の評価（主に神経学的所見の取り方・診かた）
- 第2回 脳卒中各論①（脳梗塞・診断）
- 第3回 脳卒中各論②（脳梗塞・治療）
- 第4回 脳卒中各論③（出血性脳卒中・頭部外傷）
- 第5回 脳卒中各論④（脳卒中のリハビリテーションⅠ）
- 第6回 脳卒中各論⑤（脳卒中のリハビリテーションⅡ）
- 第7回 脊髄損傷①
- 第8回 脊髄損傷②
- 第9回 末梢神経障害
- 第10回 神経変性疾患
- 第11回 骨・関節疾患
- 第12回 内部疾患（循環器・呼吸器・その他）
- 第13回 小児疾患
- 第14回 高齢者・がんのリハビリテーション
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業後も、教科書（資料が配布された場合はその資料も）を参考にして復習すること。

■ 教科書

書名：リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版
著者名：三上真弘（監修）、出江紳一・加賀谷斉（編）
出版社：南江堂

■ 参考図書

書名：リハビリテーション概論 改訂第3版
著者名：上好昭孝、田島文博（編）
出版社：永井書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

私語や無断で席を離れるなど、他の受講者および講師の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。多職種での協力が大事である医療・福祉・介護分野で働くための最低限の常識やマナーを身につけて講義に臨んでください。

授業科目	基礎解剖学						
担当者	永瀬佳孝						
実務経験者の概要	歯科医師として、実務経験があり、解剖学、神経解剖学、神経生理学の研究を実施。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

基礎解剖学では人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学び、機能との関係が説明できるようにします。解剖学や生理学のような基礎医学がそれぞれ独立したものではなく、相互に関連し臨床との関わりが深いことを学びます。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

- ・解剖学用語を覚えている。
- ・人体を構成する各器官系について説明することができる。
- ・生理学との関連を説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 細胞から人間まで《遠隔授業》 第
2回 運動系《遠隔授業》
第3回 神経系（中枢神経系）《遠隔授業》
第4回 神経系（中枢神経系）
第5回 神経系（脊髄神経系）
第6回 感覚器系と脳神経
第7回 循環系（心臓）
第8回 循環系（血管系）
第9回 呼吸器系（気道）
第10回 呼吸器系（肺と呼吸筋）
第11回 消化器系と咀嚼・嚥下
第12回 消化器系（消化管）
第13回 泌尿器系
第14回 内分泌系（視床下部下垂体系）
第15回 内分泌系（その他）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
授業ノート提出	◎	20	%	
予習・復習ノート提出	◎	20	%	
その他・備考	予習・復習が遠隔授業の間は課題となる			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 予習：指定した教科書の範囲を手書きでノートにまとめてくること。（1回の講義に対して90分）
復習：授業の終わりに指定した事項を覚えること。（1回の講義に対して90分）

■ 教科書

書名：人体の構造と機能 第5版 (ISBN-13: 978-4263237212)

著者名：内田 さえ、佐伯 由香、原田 玲子 編

出版社：医歯薬

■ 参考図書

書名：解剖学 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)

著者名：野村 巖 (編)

出版社：医学書院 (ISBN-13: 978-4260020084)

■ 留意事項

体調管理も能力に含まれるので、遅刻・欠席には注意すること。呼名している時間をもったいないので、授業終了時のノート提出により出席とする。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

臨床実習において学習不十分を実感する学生が多いので、解剖学・生理学はすべての基本となるので、しっかり勉強すること。

授業科目	解剖学基礎演習						
担当者	山田 隆人						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は、作業療法支援を行う上で必要となる。講義では、骨格、関節靭帯、筋系の形態を機能に関連付けて理解を深める。

■ 到達目標

骨格の位置や構造、作用を理解できる
 関節靭帯の構造や作用を理解できる
 筋の位置や構造、作用を理解できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、関節概論
- 第2回 肩甲骨および肩関節の構造
- 第3回 肩関節
- 第4回 肩関節障害（肩甲骨）の評価
- 第5回 肩の神経学的評価
- 第6回 肘関節の構造・機能
- 第7回 肘関節の機能評価
- 第8回 肘の神経学的評価
- 第9回 手関節・手指の構造・機能
- 第10回 手関節・手指の評価
- 第11回 股関節の構造
- 第12回 股関節障害の評価
- 第13回 膝関節の疼痛の評価
- 第14回 膝関節の構造
- 第15回 膝関節障害の評価
- 第16回 膝関節の靭帯損傷の評価
- 第17回 膝関節のアライメント評価
- 第18回 足関節の構造
- 第19回 足関節障害の評価
- 第20回 足関節の安定化機構の評価
- 第21回 実技練習
- 第22回 実技試験
- 第23回 まとめ
- 第24回 試験

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	実技テストを講義内で実施し、実技試験を10%の評価で成績判定に加える。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。

身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教科書

書名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版

著者名：野村巖 編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 留意事項

基本的な人体の構造・機能を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	運動器系の解剖学						
担当者	山田 隆人						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

身体 of 骨・関節・筋・について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。
また、自身の身体や他の受講者の身体を用いての骨・筋・関節の構成要素等の触診を行う。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につける。
学んだ内容を、それを骨標本等の運動器の標本等に適用することができるようになる。
さらに、自身及び他者の運動器に適用することができる。
自身及び他者の運動器の触診ができる。

■ 授業計画

- 第1回 全身骨格とその分類
- 第2回 脊柱と体表解剖学
- 第3回 上肢帯骨と体表解剖学
- 第4回 胸郭と体表解剖学
- 第5回 自由上肢と体表解剖学
- 第6回 脊柱と胸郭の連結
- 第7回 上肢の関節と靭帯
- 第8回 下肢帯骨と骨盤
- 第9回 自由下肢骨と体表解剖学
- 第10回 股関節と仙腸関節
- 第11回 膝関節、脛腓関節と足関節
- 第12回 頭蓋骨
- 第13回 実技試験オリエンテーションおよび実技復習
- 第14回 実技試験
- 第15回 総復習およびまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	実技テストを講義内で実施し、実技試験を10%の評価で成績判定に加える。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。
身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教科書

書名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版

著者名：野村巖 編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

基本的な人体の構造を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。
作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科書です。しっかり学びましょう。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	神経系の解剖学						
担当者	柴田 雅朗						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の各部について学習し、運動や感覚の伝わる経路（伝導路）について学ぶ。

■ 到達目標

中枢神経系および末梢神経系を構成している各部の名称や機能を説明でき、上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位が分かる。これらは専門領域で学ぶ神経系疾患、リハビリテーションの理解の基礎となる。

■ 授業計画

- 第1回 髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、クモ膜下腔、各脳室、脳脊髄液、腰椎穿刺
- 第2回 脊髄：各部の名称、前根、後根
大脳：1. 溝、回、葉 2. 大脳皮質 3. ブロードマン野
- 第3回 大脳（続き）：1. 運動野 2. 体性感覚野 3. 優位半球 4. 神経線維の種類
- 第4回 大脳（続き）：1. 大脳基底核（機能、構造、障害） 2. 内包（構造、血管分布、脳卒中）
- 第5回 大脳（続き）：1. 扁桃体
間脳：1. 視床 2. 視床下部
- 第6回 中脳：1. 中脳蓋 2. 中脳被蓋 3. 大脳脚
- 第7回 橋：1. 橋底部 2. 橋被蓋
延髄：1. オリーブ 2. 錐体交叉 3. 網様体
小脳：1. 構成[区分] 2. 皮質と髄質 3. 小脳脚
- 第8回 末梢神経系：1. 脊髄神経とは 2. 脊髄神経前枝 3. 脊髄神経後枝
- 第9回 末梢神経系：（脊髄神経の説明）1. 腕神経叢の構成 2. 腕神経叢の障害 3. 自律神経系
- 第10回 末梢神経系（続き）：1. 脳神経の総論 2. 脳神経の各論（第I～XII脳神経）
- 第11回 下行性伝導路：1. 錐体路（皮質脊髄路、皮質核路） 2. 錐体外路 3. 反射路
- 第12回 上行性伝導路：1. 温痛覚（外側脊髄視床路） 2. 粗大触圧覚（前脊髄視床路）
3. 精細触圧覚・意識にのぼる深部感覚（長後索路） 4. 無意識的な深部感覚：脊髄小脳路・副楔状束小脳路
- 第13回 上行性伝導路（続き）：特殊感覚の伝導路（視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚）
- 第14回 <総復習1>
復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説
- 第15回 <総復習2>
復習のための練習問題（国家試験形式）とその解説

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業を受けた内容について、板書したノート、配布資料、教科書、ネッター解剖学アトラスを用いて、必ず復習を毎回行い、分からない内容がないようにして下さい。分からないことは自分で調べ考えてみて、解決がつかない場合は遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

書名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 参考図書

書名：消して忘れない解剖学 要点整理ノート

著者名：井上 馨・松村讓兒

出版社：羊土社

■ 留意事項

授業中は私的な会話は厳禁です。

■ 講義受講にあたって

色鉛筆やマーカーなど色分けできる筆記用具を毎回、持ってきて下さい。色は4色あれば十分です。

授業科目	内臓系の解剖学						
担当者	赤松 香奈子						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。
適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器、性周期
- 第13回 感覚器系；視覚器
- 第14回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器
- 第15回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓、 テスト前総復習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに重要事項をまとめたプリントを配布するので、復習しておくこと。
講義では一般的な例を表した資料を配布します。
配布された講義資料のみにとどまらず、さまざまな参考書等を用いて理解を深めてください。

■ 教科書

書 名：PT・OT・ST のための解剖学
著者名：渡辺 正仁
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス 原書第6版

著者名：F.H.Netter

出版社：南江堂

■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。

■ 講義受講にあたって

解剖学は今後学ぶ科目の基礎科目です。ここで理解できていないとのちに学ぶ科目の理解が困難となります。単なる暗記にとどまらず、人間全体の生活や疾病と合わせて、人体への学びを深めてください。

授業科目	機能解剖学 (体表解剖学・触知)						
担当者	津村宜秀 (実務経験者)						
実務経験者の概要	理学療法士として急性期病棟や地域包括ケア病棟、慢性期病院での臨床経験を有している。様々な状態の方に対し触診を用いた評価、機能解剖学に基づく原因追及を実施している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

理学療法士には解剖学を二次元的に覚えるだけでなく、三次元的に捉えて触知する能力が求められます。また、各組織には機能が存在し、その機能の破綻が対象者の問題動作として表出されるため、その機能を学ぶことは理学療法士にとって必須となります。この科目では、各組織の機能解剖学と触知の技術を学びます。

■ 到達目標

- ・基本的な触知技術を習得する。
- ・各関節組織の触診方法を習得する。
- ・各関節組織の機能を理解する。
- ・各関節組織の機能から日常生活の現象を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 肩関節の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第2回 肩関節の機能解剖学 (筋)
- 第3回 肘関節の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第4回 肘関節の機能解剖学 (筋)
- 第5回 手関節・手指の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第6回 手関節・手指の機能解剖学 (筋)
- 第7回 脊柱・骨盤の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第8回 脊柱・骨盤の機能解剖学 (筋)
- 第9回 股関節の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第10回 股関節の機能解剖学 (筋)
- 第11回 膝関節の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第12回 膝関節の機能解剖学 (筋)
- 第13回 足関節の機能解剖学 (骨・靭帯)
- 第14回 足関節の機能解剖学 (筋)
- 第15回 これまでの復習

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。(欠席:-2点、遅刻:-1点) また、不良な学習態度についても減点対象(1回:-5点)とする。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

触知技術は一朝一夕では習得できないものです。また、技術は覚えるよりも実際に身体を動かして身に付けるものです。講義内では時間がある限り実技に取り組み、講義外でも友人同士で確認し合うなど技術の習得に励んで下さい。

■ 教科書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版

著者名：林 典雄

出版社：MEDICAL VIEW

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改定第2版

著者名：林 典雄

出版社：MEDICAL VIEW

■ 参考図書

書名：運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点-WEB 動画付き

著者名：林 典雄（著） 杉本 勝正（監修）

出版社：文光堂

書名：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 / 運動器系 第3版

著者名：坂井 建雄

出版社：医学書院

書名：運動器臨床解剖アトラス

著者名：中村 耕三

出版社：医学書院

■ 留意事項

講義内の実技は組織の走行に沿って皮膚上にマーキングを行いながら行います。可能な限り肌を露出できる服装で参加して下さい。準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。

■ 講義受講にあたって

本科目はこれまでに学習した解剖学、解剖学基礎演習の知識を基に講義を進めますので、必ず復習をしておいて下さい。

授業科目	生理学 I						
担当者	木村 晃大 (実務経験者)						
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境（総論）《遠隔授業》
- 第2回 筋肉1（筋、運動）《遠隔授業》
- 第3回 筋肉2（筋肉）《遠隔授業》
- 第4回 神経1（神経）
- 第5回 神経2（神経）
- 第6回 末梢神経（神経）
- 第7回 自律神経
- 第8回 中枢神経1（神経、運動）
- 第9回 中枢神経2（神経）
- 第10回 中枢神経3（感覚）
- 第11回 中枢神経4（感覚）
- 第12回 中枢神経5（言語）
- 第13回 代謝1（栄養・代謝）
- 第14回 代謝2（体温調節）
- 第15回 前期総括

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	・本試験直前のプレテスト（10%）・通常点として毎週の復習プリントの提出（10%） 入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。復習プリントは他人の物を写して提出しても全く勉強になりません。発覚した場合には通常点を無効（10点減点）という形で対処します。

■ 教科書

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第5版：最新）

著者名：岡田 隆夫・長岡 正範

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版：最新）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。もっと勉強しておけば良かったという意見を高学年の学生から毎年聞きます。臨床につながる科目だということを意識して授業に臨んで下さい。

授業科目	生理学Ⅱ						
担当者	木村 晃大 (実務経験者)						
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 血液1 (血液)
- 第2回 血液2 (免疫)
- 第3回 循環器1 (概要、刺激伝導系、心周期)
- 第4回 循環器2 (血圧・心拍数の変動、圧受容器)
- 第5回 呼吸器1 (呼吸)
- 第6回 呼吸器2 (呼吸)
- 第7回 腎臓1 (排尿)
- 第8回 腎臓2 (排尿・呼吸(酸・塩基平衡))
- 第9回 消化器1 (消化・吸収)
- 第10回 消化器2 (咀嚼・嚥下・排便)
- 第11回 内分泌1 (概要、成長ホルモン、甲状腺ホルモン)
- 第12回 内分泌2 (副腎皮質・髄質ホルモン)
- 第13回 内分泌3 (内分泌・生殖)
- 第14回 性と生殖 (生殖)
- 第15回 後期総括

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験直前のプレテスト (10%) ・通常点として毎週の復習プリントの提出 (10%) 			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。復習プリントは他人の物を写して提出しても全く勉強になりません。発覚した場合には通常点を無効(10点減点)という形で対処します。

■ 教科書

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第5版：最新）

著者名：岡田 隆夫・長岡 正範

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版：最新）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。もっと勉強しておけば良かったという意見を高学年の学生から毎年聞きます。臨床につながる科目だということを意識して授業に臨んで下さい。

授業科目	運動学総論						
担当者	長谷川昌士						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

関節の基本構造と機能を学習する。運動器である上肢の運動、下肢の運動、脊柱・体幹の関節運動について理解を深める。関節運動における筋や靭帯の作用について理解を深める。運動学習の成果を左右する要因や測定する方法について理解する。運動時における呼吸・循環反応を理解する。

■ 到達目標

1. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係について説明できる。
2. 運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組みについて説明できる。
3. 運動を継続するためのエネルギー供給機構について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 運動器の構造と機能 1
- 第2回 運動器の構造と機能 2
- 第3回 肩複合体の運動学 1
- 第4回 肩複合体の運動学 2
- 第5回 肘関節・前腕の運動学 1
- 第6回 肘関節・前腕の運動学 2
- 第7回 肩・肘関節・前腕についての振り返り
- 第8回 手関節・手指の運動学 1
- 第9回 手関節・手指の運動学 2
- 第10回 手関節・手指の運動学 3
- 第11回 手関節・手指についての振り返り
- 第12回 股関節の運動学 1
- 第13回 股関節の運動学 2
- 第14回 膝関節の運動学 1
- 第15回 膝関節の運動学 2
- 第16回 足関節・足部の運動学 1
- 第17回 足関節・足部の運動学 2
- 第18回 下肢についての演習
- 第19回 脊柱・体幹の運動学 1
- 第20回 脊柱・体幹の運動学 2
- 第21回 脊柱・体幹についての振り返り
- 第22回 顔面と頭部の運動学 1
- 第23回 顔面と頭部の運動学 2
- 第24回 運動学習 1
- 第25回 運動学習 2
- 第26回 運動学習についての振り返り
- 第27回 運動のためのエネルギー供給機構 1
- 第28回 運動のためのエネルギー供給機構 2
- 第29回 全体の総まとめ
- 第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
ノート	◎	20	%	
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	板書ノートの完成度についても評価の対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習に関して、できるだけその日のうちに自宅等で20分程度は（授業でおこなった内容について）教科書、参考書、配布プリントなどを見直すようにすること。また、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学
著者名：石川朗 種村留美 小島悟
出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：筋骨格系のキネシオロジー
著者名：嶋田智明ほか監訳
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

解剖学（骨・関節）の知識が必要となる

授業科目	疫学・公衆衛生学（予防の基礎含む）						
担当者	白井文恵						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学とその研究手法である疫学について学習する。

■ 到達目標

- ①健康とは何かを理解する。
- ②健康に生活するとはどのようなことか理解する。
- ③健康に生活することを保障する社会の仕組みを理解する。
- ④健康に関する研究手法である疫学について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 衛生学・公衆衛生学序論、国際保健医療
- 第2回 保健統計
- 第3回 疫学
- 第4回 疾病予防と健康管理
- 第5回 主な疾病の予防、環境保健
- 第6回 母子保健、学校保健
- 第7回 高齢者の保健・医療・介護、精神保健
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	90	%
レポート	◎	10	%
小テスト			
その他・備考			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業計画内容の単元について教科書を読んでください。
復習：授業単元の教科書を読み返してください。

■ 教科書

書 名：シンプル衛生公衆衛生学2020
出版社：南江堂

■ 参考図書

書 名：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2020/2021
出版社：厚生労働統計協会

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

授業科目	作業療法概論						
担当者	辻 郁 (実務経験者)						
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

作業療法は人生活機能の改善・向上や活動性の発達・拡大を通して、社会参加の可能性を引き出す働きかけをする。本科目では講義、グループ学習を通して作業療法の基礎を学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス間延焼対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

- 1) 作業療法実践の枠組みがわかる
- 2) 作業療法実践の実際がわかる
- 3) 作業療法を専門用語を使って説明できる

■ 授業計画

第1回	作業療法士の仕事 《遠隔授業》	レポート課題
第2回	作業療法の定義と作業療法にとっての「作業」の意味-1 《遠隔授業》	
第3回	作業療法の定義と作業療法にとっての「作業」の意味-2 《遠隔授業》	レポート課題
第4回	作業療法の歴史と作業療法の原理/理論-1	1回～3回の範囲の小テスト
第5回	作業療法の歴史と作業療法の原理/理論-2	理論に関する小テスト
第6回	作業療法の過程	
第7回	作業療法の教育体系/統計データから見る作業療法士	
第8回	まとめ	

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート	◎	10	%	
小テスト	◎	10	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

授業終了後のノート整理、小テストの事前学習に十分取り組むこと

■ 教科書

書 名：標準作業療法学・専門分野「作業療法概論」
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：作業療法学全書・改訂版「作業療法評価学」
出版社：協同医書出版社

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること 教科書を読む ノートをとる わからない点は積極的に質問する 授業の実施方法については変更されることもありうる。その際には講義支援システム (Moodle)を通じて周知する

■ 講義受講にあたって

最初の専門科目ですから、興味を持って授業に臨んで下さい。作業療法には分かりづらい或いは説明しづらい点もたくさんありますが、この科目を学ぶことによって作業療法を具体的に理解していきましょう。

授業科目	基礎作業学 I						
担当者	足立一 (実務経験者)、川口眞由 (実務経験者)、大谷将之 (実務経験者)、南庄一郎 (実務経験者)						(オムニバス)
実務経験者の概要	担当教員全てが、作業療法士として、医療、福祉施設にて、勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

日常、私たちが当たり前に行っている生活を再探検しながら分析する演習を指導を通して重ねる。作業分析の観点から人の生活技能と対人技能の観察評価を体験する。

■ 到達目標

作業活動を構造的に捉え、分析することができる。
 作業分析の観点から作業療法評価を一度体験する。
 作業分析が作業療法にいかに関与かを理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業とは？ 工程分析理論と演習 (実務経験者：足立一)
- 第2回 動作分析理論と演習 (実務経験者：足立一)
- 第3回 感覚知覚認知分析理論と演習 (実務経験者：足立一)
- 第4回 ADL 作業分析の演習 (実務経験者：足立一)
- 第5回 ADL 作業分析の演習 (実務経験者：足立一)
- 第6回 IADL 作業分析の演習 (実務経験者：足立一)
- 第7回 IADL 作業分析の演習 (実務経験者：足立一)
- 第8回 IADL 作業分析の演習 (実務経験者：足立一)
- 第9回 IADL 作業分析の演習 (実務経験者：足立一)
- 第10回 就労に必要な技能に関する作業分析 (実務経験者：川口眞由 足立一)
- 第11回 就労に必要な技能に関する作業分析 (実務経験者：川口眞由 足立一)
- 第12回 作業遂行技能の観察評価体験 (実務経験者：大谷将之 足立一)
- 第13回 作業遂行技能の観察評価体験 (実務経験者：大谷将之 足立一)
- 第14回 社会交流技能の観察評価体験 (実務経験者：南庄一郎 足立一)
- 第15回 社会交流技能の観察評価体験 (実務経験者：南庄一郎 足立一)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート	◎	60	%	
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	小テストは実技テスト。入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

演習後はレポートを提出すること。
 観察評価体験から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	作業療法総合演習 I						
担当者	辻 郁・OT専任教員 (すべて実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 内 容

相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験する。

特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

■ 到達目標

- ① 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ② 積極的・主体的な学生生活を送っている

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション グループ分け
- 第2回 作業療法と国際交流
- 第3回 作業療法と国際交流 -2
- 第4回 作業療法と国際交流 -3
- 第5回 作業療法紹介媒体を作成する
- 第6回 作業療法紹介媒体を作成する -2
- 第7回 作業療法紹介媒体を作成する -3
- 第8回 テーマに基づきリーフレットを作成する
- 第9回 テーマに基づきリーフレットを作成する -2
- 第10回 テーマに基づきリーフレットを作成する -3
- 第11回 リーフレット発表会
- 第12回 国家試験問題と解説を作成する
- 第13回 国家試験問題と解説を作成する -2
- 第14回 解答と解説
- 第15回 特別講演を聞く

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				
レポート	◎	70	%	
小テスト				
その他・備考	取り組み態度 (欠席しない、積極的に取り組んでいる) 30%			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

時間内に達成できなかった内容を完成させる
指摘された重要事項を復習する
次回の課題遂行に必要な情報を収集し、資料等の準備を行う

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく

■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

授業科目	作業療法管理学						
担当者	辻 郁 (実務経験者)						
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

講義により、作業療法及び作業療法士が勤務する施設等の管理の在り方や、作業療法士を取り巻く社会制度、さらに、作業療法の職域と職業倫理に学び、理解を深める内容である

■ 到達目標

1. マネジメントとは何かを知ること
2. 作業療法士の職業倫理を理解すること
3. 作業療法を取り巻く諸制度を知ること

■ 授業計画

- 第1回 作業療法とマネジメント
- 第2回 組織の成り立ちとマネジメント
- 第3回 情報のマネジメント
- 第4回 サービスのマネジメント
- 第5回 医療安全マネジメント①
- 第6回 医療安全マネジメント②
- 第7回 作業療法業務のマネジメント①
- 第8回 作業療法業務のマネジメント②
- 第9回 作業療法業務のマネジメント③
- 第10回 作業療法の役割と職域
- 第11回 作業療法士の職業倫理
- 第12回 作業療法を取り巻く諸制度
- 第13回 作業療法を取り巻く諸制度
- 第14回 臨床実習の理解と管理体制
- 第15回 作業療法士のキャリア開発

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：次回授業予定部分のテキストを読んでおくこと

復習：講義内容をまとめ、十分に理解できていなかった部分を次回の授業で確認できるよう準備しておく

■ 教科書

書 名：作業療法管理学入門
 著者名：大庭順平 編集
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

--

■ 留意事項

欠席しないこと

■ 講義受講にあたって

作業療法概論で学んだことを確認しておくこと

授業科目	作業療法評価学概論						
担当者	辻 郁 (実務経験者)						
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

講義により、作業療法評価の枠組みを学習する
演習によって生活機能の把握方法を学ぶ

■ 到達目標

- 1) 作業療法評価とは何かを説明できる
- 2) 作業療法評価の過程を説明できる
- 3) 作業療法評価における記録と責任について説明できる
- 4) 面接、観察による情報収集のポイントがわかる
- 5) 意識やバイタルサインについて理解する

■ 授業計画

- 第1回 講義と演習：
評価学の基礎1
バイタルサインの測定1（脈拍）
- 第2回 講義と演習
評価学の基礎2
バイタルサインの測定2
（意識状態）（血圧）
- 第3回 演習：バイタルサインのチェック
- 第4回 講義と演習：
面接法・観察法
- 第5回 演習：面接・観察
- 第6回 演習：形態計測 / 関節可動域測定 / 筋力検査
- 第7回 演習：形態計測 / 関節可動域測定 / 筋力検査
- 第8回 事例分析

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

テキストの該当ページを必ず読みおおよその理解をしておくこと
授業終了後はノートを整理し直し、わからないことや興味があることは調べておくこと

■ 教科書

書名：作業療法評価学
著者名：岩崎テル子編集
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：DVD シリーズ1 PT・OT のための測定評価 第2版 ROM 測定
著者名：福田 修（監修）
出版社：三輪書店

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理につとめる 授業には主体的に参加する
メジャーやゴニオメーター、聴診器を使用するので忘れないようにする
演習があるので、動きやすい服装で参加する

■ 講義受講にあたって

作業療法士として、対象者を深く理解する第一歩になる評価学の第一歩です。つまり、基礎の基礎ですから、この科目で作業療法評価とは何か、実際にどのように進めるのかを習得しましょう

授業科目	臨床ゼミナールⅠ						
担当者	吉田 文 (実務経験者)						
実務経験者の概要	精神科病院における作業療法の臨床経験および臨床実習指導の経験						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

この科目では、作業療法に欠かせないコミュニケーションスキルや面接・観察を中心に学習を行う。臨床見学実習でその知識・技術を活用できるようにグループワークによる演習を行い、事例を基にディスカッションする。他の科目で学んだ知識・技術も使いながら、作業療法場面における情報を掘み、作業療法と対象者について概説できる力をつける。

■ 到達目標

1. 作業療法学生として対象者・スタッフとコミュニケーションができる
2. 面接により作業療法評価に必要な情報を収集する
3. 観察により作業療法評価に必要な情報を収集する
4. 得た情報をもとに作業療法と対象者について概説できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 臨床実習の環境、社会人・医療人としての基本的資質とは
リアクションペーパーの書き方
- 第2回 コミュニケーションとは？人と接するための基本
コミュニケーションスキル演習①（距離）
- 第3回 人との関係づくりの基本 対象者・家族との関係づくり
コミュニケーションスキル演習②（位置）
- 第4回 人との関係づくりの基本 スタッフ・社会との関係づくり
コミュニケーションスキル演習③（視線）
- 第5回 人との関係づくりの基本 敬語、連絡・報告・相談 ・質問 コミュニケーションスキル演習④（質問）
- 第6回 面接に必要な知識・技術 復習
面接の演習①（傾聴）
レポート課題の提示
- 第7回 面接場面についてのディスカッション 事例を用いて
面接の演習②（アクション反応）
- 第8回 観察に必要な知識・技術 復習
観察演習①（外観・環境）
- 第9回 観察場面についてのディスカッション 事例を用いて
観察の演習②（動作）
- 第10回 臨床実習記録の書き方
- 第11回 作業療法場面の捉え方 作業療法に関する文献を治療構造に沿って捉える
- 第12回 レポート課題の質疑応答
- 第13回 臨床実習におけるリスク管理（車イス介助含む）
- 第14回 アサーションと学生自身のコミュニケーションの特徴の理解
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	リアクションペーパー 25% 課題提出 25% 出席を基本とする授業のため遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。 またリアクションペーパー、課題提出の遅れや不備は減点対象。 遅れは当日中であれば2/3点、翌日は1/3点。2日目以降加点なし。但し提出すればFBは行う。 また、不備があった場合、軽微なもの-1点～重大なもの-3点で判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版

著者名：小林夏子 福田恵美子

出版社：医学書院

書名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版

著者名：能登真一 山口昇 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：コミュニケーションスキルトレーニング 患者満足度の向上と効果的な診療のために

著者名：松村真司 編集

出版社：医学書院

書名：医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ

著者名：藤崎 和彦 編集

出版社：篠原出版新社

書名：高齢者援助における相談面接の理論と実際

著者名：渡部律子

出版社：医歯薬出版

書名：コミュニケーションスキルの磨き方

著者名：澤 俊二・鈴木孝治

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

臨床見学実習の準備を行う授業であるため、演習を中心として進めていく。積極的な参加が望まれる。
また、遅刻・欠席は事前にメールで連絡すること。

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	臨床見学実習						
担当者	OT 専任教員 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位	講義形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床見学，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う

■ 到達目標

1. 作業療法の実施状況を観察し，記録できる
2. リハビリテーションの流れの中の作業療法（士）の役割を理解できる
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る

■ 授業計画

第1回～15回
 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床見学実習（5日間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 30% 実習地での成績 30% 実習終了後の報告・報告書の内容 40% 実習前後の課題，実習地での成績，実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

授業科目	人間関係学						
担当者	島 雅人・井口 知也					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

よりよい人間関係を築き、営むことは日常生活や専門職としての活動においてなくてはならないものである。本講義では人間関係について社会心理学や臨床心理学の視点から、講義だけでなく個人ワーク・グループワークを通して基礎的素養・応用知識を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の日常生活や専門職としての活動の中で活かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・人間のころとは
- 第2回 自分自身について考えてみよう
- 第3回 コミュニケーションとは？① -対人認知と社会的認知
- 第4回 コミュニケーションとは？② -コミュニケーションの要素
- 第5回 なぜ人は他者に好感を持つのか？ -対人魅力
- 第6回 自分の表現の仕方 -自己提示と自己開示
- 第7回 集団の影響
- 第8回 ストレスの仕組みを学ぶ
- 第9回 自分の気持ちの伝え方 ① -自分の表現の特徴を知る
- 第10回 自分の気持ちの伝え方 ② -3つの自己表現
- 第11回 相手の話しの聴き方 ① -自分の気持ちと相手の価値観
- 第12回 相手の話しの聴き方 ② -基本的な傾聴技法
- 第13回 傾聴技法のロールプレイ -わたしの悩み
- 第14回 問題解決のロールプレイ
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	60	%	
小テスト				
その他・備考	毎回のワークへ取り組みの態度やレスポンスカードの提出（40%）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：適宜紹介します

■ 留意事項

本講義では個人およびグループでのワークが多くあります。欠席や遅刻のないように注意すること。

■ 講義受講にあたって

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学 I						
担当者	山口 忍 (実務経験者)						
実務経験者の概要	35年以上の間、広島大学附属病院・京都大学附属病院の耳鼻咽喉科等にて臨床活動を経験						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

コミュニケーションの基本的スキルを身に着ける演習及び傾聴の意味を理解する。適切なコミュニケーションとは、人間の基本的欲求に根差した対応であることを理解する。「聞く」練習を行い、「聴く」演習をする。心理検査で自分の傾向を知り、メタ認知について学ぶ。相手に届く声のかけ方を演習する。

■ 到達目標

初対面の方に、不快感を与えず近づいて行ける。
 医療者の発言が対象者の方やご家族にどのようにとらえられるか知る。
 同僚の多職種の方とコミュニケーションを図るために、現場における「聞く」能力を高める。
 届くように声をかけること、笑顔で挨拶することができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 挨拶・笑顔と自己紹介の練習 基礎ゼミで学んだことを生かして
- 第2回 「聞く」と「聴く」の違いを学ぶ
- 第3回 自分との対話：心理検査を用いて
- 第4回 コミュニケーションにおけるポジショニング
- 第5回 やまびこのレッスン 声を出す・話すという事
- 第6回 医療関係者に言われて嫌だった言葉
- 第7回 〃 グループでまとめ発表する (人間の基本的欲求と照らして)
- 第8回 人間の本能とコミュニケーション

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

コミュニケーションは日々の積み重ね、です。一日のうち、挨拶をする際の自分や、相手に声をかける自分を意識し、明るく元気を心掛けてみましょう。また対人援助職として「聞く」や「聴く」ができるように、やってみましょう。それらがこの講義の復習になります。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

演習は積極的に行う事。臨床では、対象者の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とでも、明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組むこと

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ						
担当者	大根茂夫（実務経験者）・中村靖子（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	大根茂夫／中村靖子（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害及び嚥下障害の患者を担当した）						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

- ・神経系の基礎を復習する。大根茂夫（実務経験者）
- ・摂食嚥下障害の基礎について学び、摂食嚥下障害の方への関わり方について学ぶ。中村靖子（実務経験者）

■ 到達目標

- ・神経系の基礎知識を身につける。大根茂夫（実務経験者）
- ・摂食嚥下障害に関する必要な基礎知識を身につけ、基本的な関わり方について理解する。中村靖子（実務経験者）

■ 授業計画

- 第1回 神経系の復習① 中枢神経系：大脳、間脳 大根茂夫（実務経験者）
- 第2回 神経系の復習② 中枢神経系：小脳、脳幹、脊髄 大根茂夫（実務経験者）
- 第3回 神経系の復習③ 末梢神経系：脳神経、脊髄神経、自律神経 大根茂夫（実務経験者）
- 第4回 神経系の復習④ 練習問題：国家試験問題とその解説 大根茂夫（実務経験者）
- 第5回 摂食嚥下障害① 概論
中村靖子（実務経験者）
- 第6回 摂食嚥下障害② チームアプローチ及び評価のポイント 中村靖子（実務経験者）
- 第7回 摂食嚥下障害③ 訓練及び食事介助について 演習含む 中村靖子（実務経験者）
- 第8回 摂食嚥下障害④ 口腔ケアの意義と方法について 演習含む 中村靖子（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	25	%	
小テスト	◎	75	%	
その他・備考	第1～6回は小テストで評価します。第7回と8回はレポート及び演習への参加態度で評価します。入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・講義終了後は必ず復習してください。
- ・空き時間を利用して実技演習も行ってください。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション
著者名：稲川利光
出版社：学研メディカル秀潤社

■ 留意事項

摂食嚥下障害の演習時の持ち物は追って掲示しますので各自確認をしてください。

■ 講義受講にあたって

臨床や国家試験に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ						
担当者	大西環（実務経験者）・大根茂夫（実務経験者）・中村靖子（実務経験者）・井口知也（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	大西環／大根茂夫／中村靖子（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害の患者を担当した）／井口知也（作業療法士として病院などで失語症を有する障害者に介入した）						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

- ・失語症とはどのような言語障害であるかを理解し、コミュニケーションの取り方について学ぶ。 大西環（実務経験者）
- ・講義のほか、言語障害の方との対話会も実施。 大西環、大根茂夫、中村靖子、井口知也（実務経験者）

■ 到達目標

- ・失語症が他の言語障害とどのように異なるのか、概略を説明できるようになる。
- ・有効なコミュニケーション方法を知り、自ら工夫しコミュニケーションを図れるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 対人援助職としての心構え 中村靖子（実務経験者）
- 第2回 失語症の基礎知識 失語症とは 言語障害の特徴と症状 大西環（実務経験者）
- 第3回 失語症の基礎知識 失語症のタイプの分類 大西環（実務経験者）
- 第4回 失語症状と失語症検査の概要 大西環（実務経験者）
- 第5回 模擬対話会 大西環／大根茂夫／中村靖子（実務経験者）
- 第6回 模擬対話会のフィードバックとコミュニケーションの工夫 対話会の準備について 大西環／大根茂夫／中村靖子（実務経験者）
- 第7回 対話会 大西環／大根茂夫／中村靖子／井口知也（実務経験者）
- 第8回 対話会 大西環／大根茂夫／中村靖子／井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	50	%	
小テスト	◎	50	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・授業後は復習してください。
- ・グループでの準備や活動をしっかり行ってください。

■ 教科書

書 名：絵でわかる言語障害
 著者名：毛束真知子
 出版社：学研メディカル秀潤社

■ 参考図書

--

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

臨床に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

授業科目	言語学						
担当者	松井理直						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

言語聴覚士（ST）とのチーム医療を行う上で、ST の仕事に必要な言語学に関する基礎知識の涵養を目指す

■ 到達目標

言語学の基礎分野である音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論に関する基本的な知識を身につけると共に、日常的な言語現象に対する基本的な分析ができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 言語とは何か.
- 第2回 音声学の基礎
- 第3回 日本語の音声現象
- 第4回 音韻論の基礎
- 第5回 日本語の音素体系
- 第6回 日本語のアクセントについて
- 第7回 形態論の基礎
- 第8回 日本語における異形態
- 第9回 連濁現象について
- 第10回 統語論の基礎
- 第11回 生成文法の考え方
- 第12回 命題論理の基本
- 第13回 意味論の基礎
- 第14回 条件文の意味分析
- 第15回 言語障害に関する基本的な知識

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	小テストは授業内に行う。その際、インターネット上の資料も用いる。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業ごとに、翌週の授業で勉強する教科書の範囲を指定しますので、必ず予習が必要です。反転学習を行うことも多いので、予習をしない場合には、授業内容がおそらく理解できません。予習に関しては、おおよそ1週間でおおよそ2時間程度の勉強量となります。また、復習については予習以上に重要です。宿題も出しますので、1週間に3時間程度の勉強時間が必要となるでしょう。

■ 教科書

書名：言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版

著者名：今泉敏（監修）

出版社：医学書院（定価4180円）

■ 参考図書

■ 留意事項

選択授業であるが、教科書は必ず購入すること。また、予習・復習を必ず行うこと。

■ 講義受講にあたって

選択科目であるため、内容に十分に興味を持っていることを前提として授業を行う。本授業を選択するかどうかを決める際に、ものごとを論理的に判断することが要求され、国語の能力とともに、数学の能力も要求される点に十分留意されたい。

授業科目	統計学						
担当者	周藤俊治						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につけることが必要である。そこで、本講義では PC を利用しデータを取り扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

PC を用いて代表値や散布度などの指標を算出できる
 PC を用いてわかりやすい表・グラフを作成できる
 推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる

■ 授業計画

- 第1回 尺度, データ形式《遠隔授業》
- 第2回 データの取り込み, 整理《遠隔授業》
- 第3回 記述統計 (I) 度数分布表《遠隔授業》
- 第4回 記述統計 (II) 度数分布図
- 第5回 記述統計 (III) 代表値, 散布度
- 第6回 推定 (I) 大数の法則
- 第7回 推定 (II) 中心極限定理
- 第8回 推定 (III) 正規分布による推定
- 第9回 推定 (IV) t 分布による推定
- 第10回 検定 (I) 二標本 t 検定
- 第11回 検定 (II) 一標本 t 検定
- 第12回 検定 (III) カイ二乗検定
- 第13回 判断分析 (I) 感度, 特異度
- 第14回 判断分析 (II) ROC 曲線
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	30	%	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
レポート				
小テスト				
その他・備考	講義中に作成する成果物 70% 科目試験は PC を利用します			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

講義情報 (<http://www.medbb.net>) および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

講義資料は適宜配布します。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

講義は PC を利用します

授業科目	教育学						
担当者	川村 光						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 内 容

教育とはどのようなものか、教育を行う指導者に求められるものはなにか、指導者が学生に教育を行う学校とはどのようなものなのか、さらには、学校を取り巻く社会とはどのようなものなのかということに関する基礎的な内容について学びます。

■ 到達目標

1. 教育の特徴、指導者に求められる力量、学校の機能、社会構造の変容について説明できる。
2. 授業で取り上げた内容について、自分の意見を主体的に述べることができる。

■ 授業計画

- 第1回 教育学の授業に関するオリエンテーション
- 第2回 話すことと聞くこと①（伝える技術の学修）
- 第3回 話すことと聞くこと②（伝える技術の実践）
- 第4回 教育することの特徴
- 第5回 教育とは何か①（事例をもとに検討）
- 第6回 教育とは何か②（ボノボの事例）
- 第7回 教育とは何か③（まとめ）
- 第8回 教育を取り巻く社会構造の変容
- 第9回 社会構造と家庭教育①（良妻賢母の登場）
- 第10回 社会構造と家庭教育②（昭和の教育ママ）
- 第11回 社会構造と家庭教育③（1990年代の子育て）
- 第12回 社会構造と家庭教育④（三歳児神話）
- 第13回 隠れたカリキュラム
- 第14回 学校の機能
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・ 講義内容の復習を行うこと。
- ・ 原則的にすべての受講生が3分間スピーチを行うので、発表日までにその準備を行うこと。また、発表後の授業時に振り返りの報告を行うので、そのための準備をすること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

グループワークを行ったり、意見を発表したりすることがある。積極的、主体的に授業に参加することが必要である。また、協働的な姿勢が求められる。そのため、教育に関心を持って、学修を積極的に行おうと思う学生が受講すること。

授業科目	法学概論						
担当者	家 正治						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 内 容

「社会あるところに法あり」という法格言があります。社会規範には道徳規範、宗教規範、習俗規範、法規範などがありますが、それらの中で法規範はどのような特徴を有するかを把握し、また今日の国内法と国際法が当面する主要問題と課題を考察します。

■ 到達目標

本講義を通じて、国内社会における「人の支配」に対する「法の支配」、また国際社会における「力の支配」に対する「法の支配」について理解することを目指します。そして、その中で、リーガル・マインド、「法的ものの考え方」に接近することいたします。

■ 授業計画

- 第1回 「法学」を学ぶにあたって
- 第2回 法とは何か — とくに法と道徳について
- 第3回 法の発展と法の体系
- 第4回 近代国家と憲法
- 第5回 憲法と国民主権主義
- 第6回 憲法と基本的人権尊重主義
- 第7回 憲法と平和主義
- 第8回 憲法と権力分立（三権分立）
- 第9回 法と裁判 — とくに裁判基準について
- 第10回 国内法と国際法の関係
- 第11回 戦争の違法化と安全保障の法体制
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）
- 第13回 国際経済のシステムと諸課題について
- 第14回 地球環境の保護の法体制
- 第15回 国内社会と国際社会における「法の支配」

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	授業態度（平常点）30点			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回授業の始めに若干の時間を割き、国内社会で生起している法的問題を取り上げて検討することいたします。一般新聞の、とくに政治、経済、社会面に留意しておいて下さい。

■ 教科書

書名：法学入門〔最新版〕

著者名：末川博 編

出版社：有斐閣

■ 参考図書

書名：現代法学入門〔最新版〕

著者名：伊藤正己・加藤一郎 編

出版社：有斐閣

■ 留意事項

積極的に質問や意見などの発言を歓迎いたします。

■ 講義受講にあたって

問題意識をもつとともに日常的な勉強への努力を望みます。

授業科目	国際社会と日本						
担当者	家 正治						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

国際社会の構造とその現状を理解し、現代の国際社会が直面する戦争と平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題などの全人類的課題をとり上げながら、その中で占める日本の位置と役割について考察します。

■ 到達目標

国際社会の構造や実態を把握し、国際社会を規律している原則や規範について理解し認識するとともに、現代国際社会において日本の占める位置と立場と係わりについて理解できるように努めます。

■ 授業計画

- 第1回 国際社会の成立とその中での日本
- 第2回 国際社会の発展とその中での日本の位置と係わり
- 第3回 国際社会を動かす主要なアクターと日本
- 第4回 戦争の違法化と国際紛争の平和的解決（日本の係わりを含めて）
- 第5回 勢力均衡政策から集団安全保障体制へ（日本の係わりを含めて）
- 第6回 平和維持活動（PKO）の役割と日本の位置
- 第7回 軍縮の現状とその阻害要因および日本の役割
- 第8回 日米安全保障体制の展開と現状
- 第9回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 歴史的展開
- 第10回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 現状と実態
- 第11回 人権の国際的保障（国際人権保障）の発展
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）と日本
- 第13回 難民問題とその庇護と保護および日本の対応
- 第14回 地球環境の保護と国際協力 - とくに日本の役割について -
- 第15回 今後の国際社会と日本

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	授業態度（平常点）30点			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国際社会で生起している具体的な事例をとり上げながら、授業を行ないたいと思います。毎日、できるだけ一般新聞の国際面を読むように心掛けて下さい。

■ 教科書

書 名：国際関係〔全訂版〕
 著者名：家正治／岩本誠吾／桐山孝信／戸田五郎／西村智郎／福島崇宏 著
 出版社：世界思想社

■ 参考図書

書名：国際機構〔第四版〕
著者名：家正治／小畑郁／桐山孝信 編
出版社：世界思想社

■ 留意事項

積極的に質問や意見などの発言を歓迎いたします。

■ 講義受講にあたって

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

授業科目	福祉住環境論						
担当者	山田 隆人 (実務経験者)						
実務経験者の概要	東大阪市住宅改造助成事業検証活動検証活動員 (NPO 法人への委託事業、平成 22 年 1 月～現在に至る) 「平成 26 年度 福祉用具・住宅改修研修会」, 講師 「住環境調整及び居住支援」研修会講師, 三重県作業療法士会研修会, 2018.10.20 専門作業療法士 (作業療法士協会) 二級建築士免許証						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

OT・PT の職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である居住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持・向上を計ります。本講義では、居住環境の改善に関連する制度や施策、関連する職能との連携および居住環境改善を行う為の基礎知識を学びます。

■ 到達目標

居住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する
高齢者や障害者の暮らしの状況を理解する
障害の特性を理解し、環境支援の方法を理解する

■ 授業計画

- 第 1 回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 2 回 介護保険制度の概要
- 第 3 回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 4 回 障害者施策の概要
- 第 5 回 福祉住環境とマネジメント
- 第 6 回 図面を見る読む
- 第 7 回 建築物の構造と留意点
- 第 8 回 体の大きさと寸法
- 第 9 回 福祉住環境整備の共通基本的技術
- 第 10 回 生活行為別福祉住環境整備の手法 玄関
- 第 11 回 生活行為別福祉住環境整備の手法 トイレ
- 第 12 回 生活行為別福祉住環境整備の手法 浴室
- 第 13 回 生活行為別福祉住環境整備の手法 その他
- 第 14 回 住環境整備課題 1
- 第 15 回 住環境整備課題 2

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	講義内で 2 課題を行いその提出及び内容で判定する (100%), 出席状況 (無断欠席や遅刻はマイナス評価), の結果を総合的に評価する.			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。
教科書は最新版を購入すること。

■ 教科書

書名：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 〈改定5版〉
著者名：東京商工会議所
出版社：東京商工会議所

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	栄養学						
担当者	仲村 祐江						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択		

■ 内 容

人体と栄養素の相互作用について栄養学の基礎を学習する。体内での栄養素の消化吸収、エネルギー利用や生体の構成材料利用など栄養素の役割と生理や代謝のしくみを学ぶ。ライフステージごとに「2020年版食事摂取基準」を理解する。

■ 到達目標

1. 栄養学の概念を理解する。
2. ヒトが生活活動を維持するために必要な栄養素の役割を理解する。
3. 「2020年版食事摂取基準」よりライフステージごとの各栄養素の必要量を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 栄養の概念
- 第2回 炭水化物の栄養
- 第3回 炭水化物の消化吸収と代謝
- 第4回 たんぱく質の栄養
- 第5回 たんぱく質の消化吸収と代謝
- 第6回 脂質の栄養
- 第7回 脂質の消化吸収と代謝
- 第8回 ビタミンの栄養
- 第9回 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンについて
- 第10回 ミネラルの栄養
- 第11回 食物繊維と水分について
- 第12回 食事摂取基準について
- 第13回 2020年版食事摂取基準①
- 第14回 2020年版食事摂取基準②
- 第15回 高齢者の栄養（フレイル予防）/まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%
課題提出	◎	10	%
授業態度	◎	10	%
その他・備考			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前にテキストの範囲部分を読んでおく。※予習範囲のページ数は授業内にて指定します。各栄養素の理解を深めるため自分自身の食事に学習した内容を反映させましょう。

■ 教科書

書名： 基礎栄養学

著者名： 奥恒行・柴田克己編集

出版社： 南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	チーム医療論						
担当者	辻郁・大西環・井上悟・川畑武義・岡崎満希子・大根茂夫・林部美紀（すべて実務経験者）						(オムニバス)
実務経験者の概要	オムニバス形式の内、主担当の井上は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院に必須のチーム医療の実際の経験がある。特に医療安全、感染制御等のチームのリスク・マネージャーを経験していた。大西 / 中村 / 大根：言語聴覚士として病院などに勤務し、コミュニケーション障害及び嚥下障害の臨床経験がある。岡崎 / 川畑：言語聴覚士として施設などに勤務し、小児領域の言語聴覚療法の臨床経験がある。作業療法士は各専門分野の臨床チーム実践が豊富にある。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

今改めて、チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について紹介する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について紹介する。

■ 到達目標

チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について認識する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 総論：チーム医療とは？ 今更、なぜチーム医療が求められるのか？（井上）
- 第2回 ST: 言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（STの専門性と対象・失語症）（大西）
- 第3回 ST: 言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（知的能力障害）（川畑）
- 第4回 ST: 言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（発達障害）（岡崎）
- 第5回 ST: 言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（運動障害性構音障害）（大根）
- 第6回 ST: 言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（摂食嚥下障害）（中村）
- 第7回 OT: 作業療法の専門性（辻）
- 第8回 OT: メイクアップを切り口としたチーム実践の実際（林部）
- 第9回 OT: スポーツを切り口としたチーム実践の実際（足立）
- 第10回 OT: 動物介在を切り口としたチーム実践の実際（吉田）
- 第11回 OT: 医療機関におけるチーム実践の実際（掛川）
- 第12回 チームモデルとチーム医療の条件（井上）
- 第13回 チーム医療実践具体事例1：医療安全・感染制御（井上）
- 第14回 チーム医療実践具体事例2：NST・がん（井上）
- 第15回 チーム医療実践具体事例3：リハビリテーション・チーム（井上）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	授業態度 30% ※正当な理由がない欠席や遅刻・等については減点とする（30%以内）。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書名：絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで 第2版
著者名：毛東真知子
出版社：Gakken 2376円

■ 参考図書

書名：チーム医療を成功させる10か条
著者名：福原麻希
出版社：中山書店, 2013年,3150円（最新版で）

■ 留意事項

オムニバスのため、各回の講義内容、順序・等については変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

授業科目	障害者スポーツ指導論						
担当者	島 雅人 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・足立一 (実務経験者)・山田隆人 (実務経験者)						(オムニバス)
実務経験者の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・島 雅人：日本パラリンピック委員会スポーツ医・科学・情報サポート事業バイオメカニクス担当 (公財) 日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員 (2015～) スペシャルオリンピックス日本 認定コーチ (MATP 2010～、ユニファイドサッカー 2016～)、スポーツコーチ (2017～)、ローカルトレーナー (2018～) ・相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 ・足立一：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) ・山田隆人：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) 						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	自由		

■ 内 容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の習得を図る。障がい者スポーツ指導における留意点や心理的側面について学ぶ。全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障がい区分に関する理解を座学にて学習する。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につける。

■ 到達目標

1. 障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけることができる。
2. 障がい者スポーツ指導に留意点や心理的側面について理解することができる。
3. 全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障害区分を理解できる。
4. 全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。

■ 授業計画

- 第1回 文化としてのスポーツ (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第2回 障がい者のスポーツ指導における留意点 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1. 0)、全国障害者スポーツ大会の障害区分 (0. 5)：島 (実務経験者)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の障害区分 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)：山田 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)：山田 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 車いすバスケットボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)

- 第13回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 車いすバスケットボール（1. 5）
：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第14回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）
：島（実務経験者）・相原（実務経験者）
- 第15回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）
：島（実務経験者）・相原（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>
著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編
出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書名：パラスポーツルールブック パラリンピックを楽しもう パラリンピックを楽しもう
著者名：陶山 哲夫（監修），コンデックス情報研究所（編著）
出版社：清水書院

書名：発達障がい児の感覚を目覚めさせる運動発達アプローチ タイプ別やる気スイッチが入る運動あそび
著者名：森嶋 勉
出版社：合同出版

書名：身体と動きで学ぶスポーツ科学 運動生理学とバイオメカニクスがパフォーマンスを変える
著者名：深代千之（著），内海良子（著）
出版社：東京大学出版会

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。
欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

授業科目	スポーツ医学						
担当者	佐藤 睦美・境 隆弘・他						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 必修 / OT 自由		

■ 内 容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学ぶ

■ 到達目標

スポーツ活動の場において、医療スタッフ・指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得する

■ 授業計画

- 第1回 スポーツ傷害総論 (佐藤 睦美)
 第2回 スポーツと栄養 (外部講師)
 第3回 ドーピング (外部講師)
 第4回 アスレチックリハビリテーション, スポーツ現場におけるサポート① (佐藤 睦美)
 第5回 スポーツ現場におけるサポート② (境 隆弘)
 第6回 スポーツ現場におけるサポート③ (外部講師)
 第7回 スポーツ現場におけるサポート④ (外部講師)
 第8回 スポーツ現場におけるサポート⑤ (外部講師)

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)				入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	講義内に作成する講義レポートで成績を評価する			

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

■ 教科書

書 名：教科書指定無し(配布資料で講義を行う)

■ 参考図書

書 名：やさしい学生トレーナーシリーズ4 新・スポーツ医学
 著者名：メディカル・フィットネス協会(監修)
 出版社：嵯峨野書院

■ 留意事項

講義内容・日程は外部講師の都合により前後したり変更する可能性があります。
 初講時に配布する講義スケジュールを確認すること。

■ 講義受講にあたって

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、各自確認を怠らないこと

授業科目	介護概論						
担当者	綾部 貴子 (実務経験者)						
実務経験者の概要	社会福祉士として、福祉施設で勤務していた。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

日本の介護の実態について様々な側面から学ぶとともにその課題についても考察する。
介護の実態を踏まえて、介護に関する主な法律について（介護保険法）学ぶ。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護の実態とその要因について学ぶことができる。
- ②介護に関する主な法律（介護保険法）について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本の介護の実態①（少子高齢化・要介護高齢者の現状）
- 第2回 日本の介護の実態②（家族の現状）
- 第3回 日本の介護の実態③（要介護高齢者を支援する職種の現状）
- 第4回 終末期について
- 第5回 介護殺人について
- 第6回 高齢者介護に関する法律（介護保険法）
- 第7回 認知症（症状・ケアのあり方）について
- 第8回 認知症高齢者を抱える家族介護者について

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A 4ファイル等で資料を整理しておくようにしてください。

■ 講義受講にあたって

授業に対して積極的な態度での参加を望みます。

授業科目	障害者福祉論						
担当者	増田 和高 (実務経験者)						
実務経験者の概要	障がい者支援領域で介護職(重度訪問介護員)ならびに相談職(社会福祉士)として勤務していた。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

現代社会における障害のある人の生活実態を踏まえつつ、そうした生活像にどのように制度・政策が関与し、どのような点において「生活のし辛さ」が発生してくるのかということを理解するとともに、「生活のし辛さ」を解消していくための福祉的支援の在り方、支援の理念について学ぶ。

■ 到達目標

1. 障害者支援に関わる専門職として、障害者問題に対応できる基本的知識を涵養する。
2. 「障害」という概念について基本的な考えを理解し、説明できるようになる。
3. 障害特性に応じた日常生活の課題について分析できる力を身に付ける。
4. 障害者を取り巻く諸制度の概要を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 「障害」概念の歴史的展開 (古代 - 中世)
- 第2回 「障害」概念の歴史的展開 (近代)
- 第3回 障害者の生活実態と社会情勢
- 第4回 障害者基本法の概要
- 第5回 身体障害者福祉法の概要
- 第6回 精神障害者福祉に関する法律の概要
- 第7回 知的障害者福祉法の概要
- 第8回 障害者と自立

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。 入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。(欠席:-2点、遅刻:-1点)			

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講義内で指示された教科書を事前に読み進めておく。また、講義時間内に小テストを実施するため、小テスト出題範囲の復習をその都度行うこととする。

■ 教科書

不要

■ 参考図書

■ 留意事項

講義資料についてはその都度講義毎に配布する。当該資料が試験範囲となるので、各自保管して復習等に努める。

■ 講義受講にあたって

授業科目	老人福祉論						
担当者	綾部 貴子 (実務経験者)						
実務経験者の概要	社会福祉士として、福祉施設で勤務していた。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

現代日本の高齢者をとりまく現状と福祉課題を考察する。さらに、高齢者に関する虐待や孤立死等要因も探る。また、今後増えていく認知症高齢者についても理解する。現状を踏まえて高齢者に関する主な法律（介護保険制度や高齢者虐待防止法）についても学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

- ① 高齢者福祉の社会的背景として、高齢者自身の現状、高齢者をとりまく環境について理解することができる。
- ② 高齢者に関する法律（介護保険制度や高齢者虐待防止法）について理解することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本の高齢者の実態《遠隔授業》
- 第2回 高齢者をとりまく現状①（家族）《遠隔授業》
- 第3回 高齢者をとりまく現状②（経済面）《遠隔授業》
- 第4回 高齢者をとりまく現状③（地域とのつながり～孤立死等～）《遠隔授業》
- 第5回 高齢者に関する法律①（高齢者虐待法）
- 第6回 高齢者に関する法律②（介護保険法について）
- 第7回 認知症の症状について
- 第8回 認知症高齢者について

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	正当な理由がない欠席や遅刻については減点とする。（欠席：-2点、遅刻：-1点） また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から高齢者に関するニュースや記事について関心をもつようにしてください。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

教科書を使用せずに毎回テーマに沿って資料を配布します。A4ファイル等で資料を整理しておくようにすること。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業に対して積極的な態度での参加を望みます。

授業科目	感染症学						
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)						
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として各種感染症を含む診療業務に従事している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

リハビリテーション領域において、感染症は特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるよう概説する。感染症学の基礎として、感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査について解説する。次に、呼吸器感染症、消化器感染症、肝炎、尿路感染症などの各種感染症において、原因となる病原微生物、その感染経路、臨床像、検査と診断、治療、予後、及び感染予防策について学習する。

■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法について説明できる
3. 感染予防対策、リハビリテーション業務における感染対策について説明できる

■ 授業計画

第1回	感染症総論	(1)	微生物と感染症、感染防御機構
第2回	感染症総論	(2)	感染症の検査と診断、感染症の治療
第3回	感染症各論	(1)	呼吸器感染症、結核
第4回	感染症各論	(2)	消化器感染症、食中毒、肝炎
第5回	感染症各論	(3)	尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜の感染症、その他
第6回	感染症各論	(4)	人獣共通感染症、寄生虫感染症、新興感染症、感染症トピックス
第7回	感染制御学	(1)	院内感染、薬剤耐性菌、標準予防策、感染経路別予防策
第8回	感染制御学	(2)	リハビリテーション業務における感染対策、国家試験対策（問題演習）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		80%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎		20%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：臨床微生物、医動物（NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 3）
 著者名：矢野久子、安田陽子
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書名：病原体・感染・免疫 第2版

著者名：藤本秀士

出版社：南山堂

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	医療安全学						
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)						
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として医療安全業務を含む診療業務に従事している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療安全対策の必要性について理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策、リスクマネジメント、医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策、医療事故の報告制度について学習する。また、事故事例の分析演習を通して医療事故発生のメカニズム、医療機関における安全対策のありかたについて理解を深める。

■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策、リハビリテーション業務における安全対策を説明できる

■ 授業計画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介
 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
 第3回 医療事故発生のメカニズム、医療事故分析、事故対策
 第4回 医療事故分析と対策（演習）
 第5回 医療機関における安全対策（1）
 第6回 医療機関における安全対策（2）
 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
 第8回 リハビリテーション業務における安全対策、国試対策（問題演習）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎		70%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎		30%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：医療安全（NURSING GRAPHICUS 看護の統合と実践 2）
 著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン
 著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会
 出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	解剖学基礎実習						
担当者	山田 隆人						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は、作業療法支援を行う上で必要となる。講義では、骨格、関節靭帯、筋系の形態を機能に関連付けて理解を深める。リハビリテーションにおける評価を理解するための解剖学的な機能や構造から理解を深める。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業での授業運営を取り入れる。

■ 到達目標

骨格の位置や構造、作用を理解できる
 関節靭帯の構造や作用を理解できる
 筋の位置や構造、作用を理解できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、関節概論《遠隔授業》
- 第2回 肩甲骨および肩関節の構造《遠隔授業》
- 第3回 肩関節《遠隔授業》
- 第4回 肘関節の構造《遠隔授業》
- 第5回 手関節・手指の構造・機能《遠隔授業》
- 第6回 股関節の構造《遠隔授業》
- 第7回 膝関節の構造《遠隔授業》
- 第8回 足関節の構造《遠隔授業》
- 第9回 足関節・足底の筋《遠隔授業》
- 第10回 頸部・体幹の構造
- 第11回 肩甲帯の機能
- 第12回 肩関節の機能
- 第13回 肘関節の機能
- 第14回 手関節・手指の機能
- 第15回 股関節の機能
- 第16回 膝関節の運動機能
- 第17回 膝関節の機能
- 第18回 足関節・下腿の機能
- 第19回 足関節・足底の機能
- 第20回 頸部・体幹の機能
- 第21回 実技練習
- 第22回 実技試験
- 第23回 まとめ
- 第24回 試験

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	40	%	
その他・備考	実技テストを講義内で実施し、実技試験を10%の評価で成績判定に加える。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。

身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教科書

書名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版

著者名：野村巖 編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 留意事項

基本的な人体の構造・機能を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。授業の実施方法については、変更されることもありうる。講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	生理学Ⅲ						
担当者	赤松 香奈子						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	選択		

■ 内 容

1年次科目である「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学んだ内容を基盤として、人間の生命活動や日常生活に関わる生体の機能について、身体運動との関係と合わせて学習し、理解を深める。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

生体の持つさまざまな機能およびその調節機構を理解し、人体の生命現象を論理的に説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 体液；細胞内液と細胞外液、浸透圧、酸塩基平衡《遠隔授業》
- 第2回 血液；血液成分について、止血、《遠隔授業》
- 第3回 免疫；自己と非自己、細胞性免疫と液性免疫、アレルギー《遠隔授業》
- 第4回 循環；循環系の構造、心臓、心電図、血圧、末梢循環《遠隔授業》
- 第5回 呼吸；呼吸運動、排気量、血液ガス《遠隔授業》
- 第6回 泌尿器；排泄と腎臓、尿、腎臓の内分泌機能《遠隔授業》
- 第7回 神経1；神経の構造、中枢神経の性質と構造、脊髄と伝導路
- 第8回 神経2；末梢神経、自律神経
- 第9回 代謝；栄養素、ATP、物質代謝《遠隔授業》
- 第10回 消化；消化と吸収、消化管について、腸機能の調整、肝臓《遠隔授業》
- 第11回 体温；熱の産生と放散、体温測定と体温の変動、体温中枢と発熱《遠隔授業》
- 第12回 内分泌；ホルモン、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖《遠隔授業》
- 第13回 感覚器；感覚の法則、皮膚感覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚《遠隔授業》
- 第14回 運動器；筋収縮の仕組み、骨格筋、骨について《遠隔授業》
- 第15回 テスト前総復習《遠隔授業》

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%
レポート			
小テスト			
その他・備考			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」で学習した内容を復習しておくこと。
配布資料のみではなく、参考資料やインターネットなども活用し、さまざまな角度から理解を深めること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学（第4）
著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
出版社：医学書院

■ 参考図書

--

■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと。配布された資料は必ず講義に持参すること。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

2年次後期から学ぶ評価学や治療学を理解するための基礎となる生理学を本講義でしっかりと学修する。

授業科目	生理学実習						
担当者	木村 晃大 (実務経験者)						
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	実習
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション・講義・機器取扱い実施確認1 (血圧) 《遠隔授業》
- 第2回 実習オリエンテーション・講義・機器取扱い実施確認1 (心電図) 《遠隔授業》
- 第3回 講義・機器取扱い実施確認2 (スパイロメーター) 《遠隔授業》
- 第4回 講義・機器取扱い実施確認2 (スパイロメーター)
- 第5回 講義・機器取扱い実施確認3 (呼気ガス分析装置)
- 第6回 講義・機器取扱い実施確認3 (全ての機器の確認)
- 第7回 講義・機器取扱い実施確認4 (予備日程)
- 第8回 講義・機器取扱い実施確認4 (予備日程)
- 第9回 実習1日目 (血圧、心電図、呼吸機能、筋電図、運動時の呼吸機能)
- 第10回 実習1日目 (血圧、心電図、呼吸機能、筋電図、運動時の呼吸機能)
- 第11回 レポート作成1回目 (各自の実習項目のディスカッションとレポート作成)
- 第12回 レポート作成1回目 (各自の実習項目のディスカッションとレポート作成)
- 第13回 実習2日目 (血圧、心電図、呼吸機能、筋電図、運動時の呼吸機能)
- 第14回 実習2日目 (血圧、心電図、呼吸機能、筋電図、運動時の呼吸機能)
- 第15回 レポート作成2回目 (各自の実習項目のディスカッションとレポート作成)
- 第16回 レポート作成2回目 (各自の実習項目のディスカッションとレポート作成)
- 第17回 実習3日目 (血圧、心電図、呼吸機能、筋電図、運動時の呼吸機能)
- 第18回 実習3日目 (血圧、心電図、呼吸機能、筋電図、運動時の呼吸機能)
- 第19回 レポート作成3回目 (各自の実習項目のディスカッションとレポート作成)
- 第20回 レポート作成3回目 (各自の実習項目のディスカッションとレポート作成)
- 第21回 ディスカッションと解説 (筋電図)、小テスト
- 第22回 ディスカッションと解説 (血圧、心電図)
- 第23回 ディスカッションと解説 (呼吸機能、運動負荷)、小テスト

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	45	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	45	%	
小テスト	◎	5	%	
その他・備考	・Web 課題（5%）入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

生理学実習では、参考書などを調べて考えることで、“課題を自分で解決する事が出来る様になる事”を一つの目標にしています。また、全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。

レポートの評価では①内容のオリジナリティ、②各項目について深く理解しようとする努力が認められるかどうか、を重視します。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版：最新）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出・レポートのコピー（した方・させた方両者とも）は再履修とします。被験者の安全や守秘義務を守る事を念頭にして、真剣に取り組むこと。

授業科目	運動学各論						
担当者	長谷川昌士						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

生体力学の基礎を学習する。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。呼吸や心臓における運動療法について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。筋力増強について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

1. 運動学的分析手法（床反力、体重心、関節モーメント）を理解する。
2. 立ち上がりや歩行の運動学的分析を理解する。
3. 呼吸や心臓における運動療法について理解する。
4. 筋力増強、ストレッチングにおける理論および一般的な実施方法について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎 1《遠隔授業》
- 第2回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎 2《遠隔授業》
- 第3回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎 3《遠隔授業》
- 第4回 姿勢と姿勢制御の仕組み 1《遠隔授業》
- 第5回 姿勢と姿勢制御の仕組み 2《遠隔授業》
- 第6回 運動学的分析（歩行の相別化） 1《遠隔授業》
- 第7回 運動学的分析（歩行の重心移動、関節運動） 2《遠隔授業》
- 第8回 運動学的分析（歩行の床反力、足圧中心） 3《遠隔授業》
- 第9回 運動学的分析（歩行の筋活動） 4《遠隔授業》
- 第10回 運動学的分析（立ち上がり）《遠隔授業》
- 第11回 運動学的分析（歩き始め）《遠隔授業》
- 第12回 日常生活における活動分析（FIM）《遠隔授業》
- 第13回 日常生活における作業分析（家屋評価）
- 第14回 生体力学の確認試験と振り返り
- 第15回 呼吸における運動学
- 第16回 換気中の筋活動
- 第17回 呼吸リハビリテーション（呼吸法）
- 第18回 呼吸リハビリテーション（ストレッチング）
- 第19回 心疾患の病態および検査法
- 第20回 身体運動のエネルギー代謝
- 第21回 運動処方について
- 第22回 心臓リハビリテーション（運動療法）
- 第23回 心臓リハビリテーション（生活指導）
- 第24回 呼吸・心臓リハビリテーション確認試験と振り返り
- 第25回 筋力増強訓練の効果
- 第26回 筋力増強訓練の訓練方法
- 第27回 活動を用いた筋力増強訓練方法の演習
- 第28回 ストレッチングの効果

第29回 ストレッチングの方法
第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
ノート	◎	20	%	
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	板書ノートの完成度についても評価の対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習に関して、できるだけその日のうちに自宅等で20分程度は（授業でおこなった内容について）教科書、参考書、配布プリントなどを見直すようにすること。また、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学
著者名：石川朗 種村留美 小島悟
出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：基礎バイオメカニクス
著者名：江原義弘、山本澄子、石井慎一郎
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

物理学（生体力学）や生理学（呼吸、循環）の知識が必要となる

授業科目	運動学実習						
担当者	山田 隆人						
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により習得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析する実習を通して、作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

基本動作を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授業計画

- 第1回 上肢の機能解剖
- 第2回 上肢の関節運動
- 第3回 上肢の関節の可動性に関する演習
- 第4回 下肢の機能解剖
- 第5回 下肢の関節運動
- 第6回 下肢の関節の可動性に関する演習
- 第7回 頭頸部体幹の運動
- 第8回 筋力
- 第9回 姿勢とアライメントの評価
- 第10回 関節モーメントと筋活動
- 第11回 関節モーメントと筋活動演習
- 第12回 動画解析演習
- 第13回 立ち座りの運動学の演習
- 第14回 歩行
- 第15回 歩行の動画解析演習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	50	%	
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	欠席（一回に付き、－5点）、遅刻（－2点）・早退（－2点）は減点の対象とする。 欠席・遅刻・早退によるレポートの未提出は、減点対象とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

人の運動を映像等で解析することを行います。スマホやカメラを使用します。更に、動画解析にはPCを使用します。

■ 講義受講にあたって

実習において、演習及びレポート作成・提出します。レポート作成に必要な道具等は各自準備して下さい。

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	生涯人間発達学						
担当者	辻 郁 (実務経験者)、井口知也 (実務経験者)、吉田 文 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	辻 郁：作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者へ健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供 吉田 文：精神科病院にて青年期～高齢期の方の作業療法を担当、青年期の発達障害のある方へ地域生活支援講座を提供						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

作業療法においては、ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解することは、ひとの生活を考える上で重要である。乳幼児期を中心にひとの生涯の発達について、各実務経験者がライフサイクルとひとの作業との関係、作業療法と結びつけながら講義等により学習をすすめる。

■ 到達目標

1. 原始反射と姿勢反応について理解する
2. 乳児期～青年期までの子どもの発達について理解する
3. 成人期・壮年期・高齢期（老年期）の発達について理解する

■ 授業計画

- 第1回 発達理論① エリクソンの発達理論（人間発達とは）
辻 郁（実務経験者）
- 第2回 発達理論② ピアジェの発達理論：橋本卓也（実務経験者）
- 第3回 乳児の発達（0～3か月）（遊びの発達を含む）
辻 郁（実務経験者）
- 第4回 乳児の発達（4～6か月）（遊びの発達を含む）
辻 郁（実務経験者）
- 第5回 乳児の発達（7～12か月）（遊びの発達を含む）
辻 郁（実務経験者）
- 第6回 幼児の発達（1～3歳）（遊びの発達を含む）
辻 郁（実務経験者）
- 第7回 幼児の発達（4～5歳）（遊びの発達を含む）
辻 郁（実務経験者）
- 第8回 学童期～青年期の発達（遊びの発達を含む）
辻 郁（実務経験者）
- 第9回 青年期・成人初期・成人期の発達（余暇活動の発達含む）
吉田 文（実務経験者）
- 第10回 成人初期・成人期と作業バランス
吉田 文（実務経験者）
- 第11回 高齢期（老年期）への準備
吉田 文（実務経験者）
- 第12回 高齢期の発達とライフサイクル
井口知也（実務経験者）
- 第13回 喪失と自己効力
井口知也（実務経験者）
- 第14回 肯定的な高齢期とは
井口知也（実務経験者）
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	30	%	
その他・備考	提出物 10%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A 4 で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：イラストでわかる人間発達学
著者名：上杉雅之 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：授業で随時紹介する

■ 留意事項

学生自身と異なる年代の特徴を理解するのは難しい。どのように発達を遂げながら、どのような時代を行き、今の目の前にこの対象者の方が存在するのかを理解するとともに、これからの発達を予測し、実際の作業療法場面にその知識を生かせるようになること。

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	臨床心理学						
担当者	非常勤講師						
実務経験者の概要							
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床心理学とは《遠隔授業》
- 第2回 臨床心理査定 (1)：意義と方法 (観察、面接、検査) 《遠隔授業》
- 第3回 臨床心理査定 (2)：発達検査・知能検査《遠隔授業》
- 第4回 臨床心理査定 (3)：人格検査 (概要) 《遠隔授業》
- 第5回 臨床心理査定 (5)：体験《遠隔授業》
- 第6回 こころの構造 (1)：人格構造論の観点から《遠隔授業》
- 第7回 こころの構造 (2)：発達論的観点から
- 第8回 精神病理 (1)：統合失調症、気分障害
- 第9回 精神病理 (2)：不安障害、身体表現性障害、人格障害
- 第10回 患者・障がい者の心理
- 第11回 臨床心理面接 (1)：来談者中心療法
- 第12回 臨床心理面接 (2)：精神分析
- 第13回 臨床心理面接 (3)：学習理論と行動療法
- 第14回 臨床心理査定 (4)：人格検査
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	70	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	授業への参加・貢献 (授業後の感想シートの提出など)・・・30%			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：特に指定しません

■ 参考図書

書 名：適宜紹介します

■ 留意事項

授業の最後に感想シートの配布・提出の時間があります。質問や感想を積極的に発信してください。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

「こころ」についての学びの機会になります。日常生活のなかでも自身や身の周りの人たちの”こころ”の動きに関心を払ってみてください。

授業科目	病理学概論						
担当者	松江 泰佑 (実務経験者)						
実務経験者の概要	医師として、医療機関で勤務している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

疾病の分類と成り立ちを学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。病気に関わる専門用語の定義が理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 病理学の目的と概要、病因論：内因、外因の概念、疾病の分類《遠隔授業》
- 第2回 傷害に対する細胞の反応：退行性病変及び進行性病変、再生と創傷の治癒《遠隔授業》
- 第3回 炎症・感染症：炎症の定義と原因、主に炎症の経時的变化について《遠隔授業》
- 第4回 免疫：免疫系の仕組みと働き、主に免疫応答の仕組みについて《遠隔授業》
- 第5回 炎症・感染症：感染による疾患、主に感染経路と病態、病原微生物の種類について《遠隔授業》
- 第6回 国試対策を含めた試験演習①
- 第7回 毒性病理入門
- 第8回 循環障害：循環系の構造と機能、主に局所循環障害について
- 第9回 老化：老化と寿命、主に老化に伴って増加する疾患について
- 第10回 代謝異常：代謝障害による疾患、主に脂質代謝異常症、糖質代謝異常、ビリルビン代謝について
- 第11回 放射線障害：放射線の副作用のため出現する病変
- 第12回 先天異常・奇形： 先天異常の概念と分類や代表的な先天異常、特に染色体異常について
- 第13回 腫瘍①：腫瘍の定義と分類、腫瘍の進展形式
- 第14回 腫瘍②：腫瘍発生の原因、国試対策のための臓器別の腫瘍
- 第15回 国試対策を含めた試験演習②

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。分からないことは講義中でも遠慮なく質問して下さい。

■ 教 科 書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	一般臨床医学						
担当者	藤岡重和（実務経験者）岡本文雄（実務経験者）福山智子（実務経験者）福原雅之（実務経験者）竹原友貴（実務経験者）神納光一郎（実務経験者）矢吹裕栄						（オムニバス）
実務経験者の概要	科目担当者である 岡本、竹原、福原、藤岡は、医療機関において医師として診療業務に、福山は看護師として従事した経験がある。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、その病因、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。また、皮膚科、眼科、耳鼻科疾患を有する対象患者のリハビリテーション実施上の留意事項についても概説する。

■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、その病態、特徴的に現れる症状、検査、診断、治療法を説明できる。
3. 皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション実施上の留意事項を説明できる。

■ 授業計画

第1回	救急医学総論 (1)	岡本文雄（実務経験者）
第2回	救急医学総論 (2)	岡本文雄（実務経験者）
第3回	救急医学各論 (1)	ショック、心肺停止 神納光一郎（実務経験者）
第4回	救急医学各論 (2)	意識障害、吐血、下血と腹痛 神納光一郎（実務経験者）
第5回	救急医学各論 (3)	外傷、環境障害 神納光一郎（実務経験者）
第6回	産科学	福山智子（実務経験者）
第7回	婦人科学	福山智子（実務経験者）
第8回	皮膚科学	竹原友貴（実務経験者）
第9回	皮膚科学	竹原友貴（実務経験者）
第10回	皮膚科学	竹原友貴（実務経験者）
第11回	眼科学	福原雅之（実務経験者）
第12回	眼科学	福原雅之（実務経験者）
第13回	耳鼻咽喉科学	矢吹裕栄
第14回	耳鼻咽喉科学	矢吹裕栄
第15回	総復習（国家試験対策）	藤岡重和（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書名：PT・OTのための一般臨床医学

著者名：明石 謙

出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：救急診療指針 改訂第4版

著者名：日本救急医学会監修

出版社：へるす出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	内科学 I						
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)						
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

リハビリテーションの対象となる内科疾患は、年々拡大しており、療法士には、各種の内科疾患の病態、評価、治療に関する詳細な理解が必要とされる。内科学 I では、循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。また、循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患を有する患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できるよう指導する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、講義の一部を以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、各種検査所見（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 内科学総論 《遠隔授業》
 第2回 循環器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）《遠隔授業》
 第3回 循環器疾患（1） 高血圧、虚血性心疾患 《遠隔授業》
 第4回 循環器疾患（2） 弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
 第5回 循環器疾患（3） 心不全、不整脈、その他
 第6回 循環器疾患（4） 大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患
 第7回 呼吸器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第8回 呼吸器疾患（1） 感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
 第9回 呼吸器疾患（2） 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
 第10回 呼吸器疾患（3） 肺腫瘍、肺循環障害
 第11回 呼吸器疾患（4） 呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
 第12回 腎、泌尿器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第13回 腎、泌尿器疾患（1） 糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
 第14回 腎、泌尿器疾患（2） 腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他
 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教科書

書名：ナースの内科学 第10版

著者名：奈良信雄

出版社：中外医学社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版

著者名：大成浄志

出版社：医学書院

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生の感染症学講義において詳しく学習します。

授業科目	内科学 II						
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)						
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

リハビリテーションの対象となる内科疾患は、年々拡大しており、療法士には、各種内科疾患の病態、評価、治療に関する詳細な理解が必要とされる。内科学 II では、消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、その病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。また、消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患を有する患者のリハビリテーション実施上の留意事項を説明できるよう指導する。

■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌内疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第2回 消化器疾患（1）食道疾患、胃の疾患
 第3回 消化器疾患（2）小腸、大腸の疾患
 第4回 消化器疾患（3）肝疾患
 第5回 消化器疾患（4）胆道疾患、膵疾患、その他
 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第7回 代謝、内分泌疾患（1）糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
 第8回 代謝、内分泌疾患（2）下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第10回 免疫、アレルギー疾患（1）アレルギー疾患
 第11回 免疫、アレルギー疾患（2）自己免疫疾患
 第12回 血液、造血器疾患（1）赤血球系疾患
 第13回 血液、造血器疾患（2）白血球系疾患、出血性疾患
 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教科書

書名：ナースの内科学 第10版
著者名：奈良信雄
出版社：中外医学社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：大成浄志
出版社：医学書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生の感染症学講義において詳しく学習します。

授業科目	整形外科学 I						
担当者	西田裕希・山田隆人・黒坂 健二 (実務経験者)・中村 憲正 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	黒坂 健二, 中村 憲正 (医師として, 臨床現場において整形外科疾患の患者に対して, 診察・治療に従事している.)						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科学 I では、整形外科の概要および身体部位別の疾患の理解を深める。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業での授業運営を取り入れる。

■ 到達目標

運動器の障害に関する基礎的な解剖・生理学の理解を深める
身体部位別の整形外科疾患の病態、整理等を理解を深める

■ 授業計画

- 第1回 整形外科とは 黒坂 健二 (実務経験者)
- 第2回 整形外科診断総論 黒坂 健二 (実務経験者)
- 第3回 整形外科治療総論 黒坂 健二 (実務経験者)
- 第4回 整形外科疾患総論 黒坂 健二 (実務経験者)
- 第5回 下肢の疾患 足部 山田 隆人 (実務経験者) 《遠隔授業》
- 第6回 上肢の疾患 肩・肩甲帯 西田 裕希 (実務経験者)
- 第7回 上肢の疾患 肘・前腕 西田 裕希 (実務経験者)
- 第8回 上肢の疾患 手・手指 西田 裕希 (実務経験者)
- 第9回 下肢の疾患 股関節疾患総論 西田 裕希 (実務経験者)
- 第10回 下肢の疾患 股関節各論 西田 裕希 (実務経験者)
- 第11回 下肢の疾患 膝関節 西田 裕希 (実務経験者)
- 第12回 体幹の疾患 体幹疾患総論 山田 隆人 (実務経験者) 《遠隔授業》
- 第13回 体幹の疾患 脊椎疾患 脊椎・脊髄損傷 山田 隆人 (実務経験者) 《遠隔授業》
- 第14回 体幹の疾患 脊椎疾患 脊椎・脊髄疾患 山田 隆人 (実務経験者)
- 第15回 整形外科領域における再生医療について 中村 憲正 (実務経験者)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	100	%	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。
レポート				
小テスト				
その他・備考	各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う場合がある。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。

■ 教科書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所 編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、検査等を行い確認します。運動しやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	整形外科学Ⅱ						
担当者	上里圭吾・山田隆人						(オムニバス)
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。
整形外科学Ⅱでは、発生機序による整形外科疾患の理解を深める。

■ 到達目標

運動器の解剖・生理学が理解できる
発生機序別の整形外科疾患の病態が理解できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、切断と義手 (山田)
- 第2回 末梢神経損傷・腕神経叢 (上里)
- 第3回 末梢神経損傷・腰神経叢 (上里)
- 第4回 外傷1 区画症候群・複合性局所疼痛症候群 (上里)
- 第5回 外傷2 上肢の骨折 (上里)
- 第6回 外傷3 骨盤・下肢の骨折 (上里)
- 第7回 外傷4 脱臼その他 (上里)
- 第8回 熱傷・末梢神経損傷の支援 (山田)
- 第9回 リウマチ性疾患・総論 (上里)
- 第10回 リウマチ性疾患・各論 (上里)
- 第11回 慢性関節性疾患・関節炎 (上里)
- 第12回 慢性関節性疾患・変形性関節症 (上里)
- 第13回 骨系統疾患 (山田)
- 第14回 代謝性骨疾患 (山田)
- 第15回 軟部組織・骨・関節感染 (山田)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う場合がある。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。

■ 教科書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所 編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	臨床神経学 I						
担当者	林部美紀・岡山友哉					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

脳や神経の仕組みや働きを理解し、神経症候のメカニズムと症状について講義やグループワークを進めていく。

■ 到達目標

1. 脳や神経の仕組みを理解できる。
2. 脳や神経の働きを理解できる。
3. 脳や神経が障害されることによる症状を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・大脳の機能局在と高次脳機能障害
- 第2回 脳画像の見方・脳血管
- 第3回 錐体路と運動麻痺（錐体路の解剖）
- 第4回 錐体路と運動麻痺（運動の異常）
- 第5回 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン
- 第6回 感覚器系と症状
- 第7回 錐体外路と症状
- 第8回 大脳基底核・小脳と症状
- 第9回 大脳辺縁系と症状
- 第10回 間脳と症状
- 第11回 脳幹と症状（意識障害）
- 第12回 脳神経と症状（脳神経Ⅰ？Ⅴ）
- 第13回 脳神経と症状（脳神経Ⅵ??）
- 第14回 脊髄・脊髄神経と症状
- 第15回 自律神経系と症状

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年生で学んだ解剖学や生理学を基本にやっていきます。授業前には必ず1年生の時に習ったその単元の復習をしておいてください。その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分以上は復習してください。

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
著者名：医療情報科学研究所／編集
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書名：PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見
著者名：森 惟明, 鶴見 隆正
出版社：医学書院

■ 留意事項

無断欠席・遅刻はしないようにしてください。

■ 講義受講にあたって

3年生で習う身体障害治療学や実習に結びつく、非常に大事な基礎科目です。1年生の解剖学生理学から繋がっています。しっかり復習してください。小テストやレポートでこまめに評価していきます。

授業科目	臨床神経学Ⅱ						
担当者	林部美紀・岡山友哉・他					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について講義やグループワークを進めていく。

■ 到達目標

1. 作業療法の対象となる各神経内科疾患のメカニズムを理解できる。
2. 作業療法の対象となる各神経内科疾患の臨床症状を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床神経学Ⅰの復習
- 第2回 脳血管障害の概要
- 第3回 脳血管障害の具体的な臨床症状
- 第4回 頭部外傷の概要と具体的な臨床症状
- 第5回 脳腫瘍の概要と具体的な臨床症状
- 第6回 多発性硬化症・ギランバレーの概要と具体的な臨床症状
- 第7回 パーキンソン病の概要と具体的な臨床症状
- 第8回 ニューロパチーの概要と具体的な臨床症状
- 第9回 脊髄小脳変性症の概要と具体的な臨床症状
- 第10回 重症筋無力症・周期性四肢麻痺・多発性筋炎の概要と具体的な臨床症状
- 第11回 筋萎縮性側索硬化症の概要と具体的な臨床症状
- 第12回 筋ジストロフィーの概要と具体的な臨床症状
- 第13回 てんかんの概要と具体的な臨床症状
- 第14回 その他の神経内科疾患（二分脊椎・脳炎・髄膜炎）の概要と具体的な臨床症状
- 第15回 認知症の概要と具体的な臨床症状

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	10	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床神経学Ⅰを基本にやっていきます。授業前には必ず臨床神経学Ⅰの復習をしておいてください。その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分以上は復習してください。

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
著者名：医療情報科学研究所／編集
出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書名：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版
著者名：田崎義昭, 斎藤佳雄他
出版社：南山堂

■ 留意事項

講義の中で、実際の患者データを提示します。必ず守秘してください。無断欠席・遅刻はしないようにしてください。

■ 講義受講にあたって

本講義は、臨床神経学 I を基盤に成り立つ科目です。必ず、臨床神経学 I の内容を理解しておいてください。また、身体障害治療学や実習につながる重要な授業です。小テストやレポートでこまめに評価していきます。

授業科目	精神医学						
担当者	高橋 清武						
実務経験者の概要	現在、精神病院で勤務し、精神障害者の治療の経験を有する者						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

主な精神疾患の症状・診断・治療について学習し、国家試験に対応でき、臨床に役立つ知識を習得する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に活かせるよう習得することを目指します。臨床の現場で精神症状を呈する患者を担当しても落ち着いて対応できる知識の習得を目指します。

■ 授業計画

- 第1回 精神医学総論 精神医学とは 精神疾患の分類《遠隔授業》
- 第2回 精神医学総論 診断・検査《遠隔授業》
- 第3回 精神医学総論《遠隔授業》
- 第4回 統合失調症《遠隔授業》
- 第5回 気分障害《遠隔授業》
- 第6回 神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害《遠隔授業》
- 第7回 パーソナリティ障害
- 第8回 アルコール、薬物関連障害
- 第9回 器質性精神障害
- 第10回 児童青年期精神障害：精神遅滞、発達障害
- 第11回 摂食障害
- 第12回 てんかん
- 第13回 睡眠障害
- 第14回 治療
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

当日受講した該当項目については、テキストを読んだり配布資料を見直すなどして、より理解を深めておくこと
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください（特に授業中に指定した問題は、次の授業までに解いておくこと）。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書名：精神医学マイテキスト
著者名：西川隆・中尾和久・三上章良
出版社：金芳堂

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。授業中の私語は、まじめに講義を受けようとする生徒の邪魔になるため厳禁です。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

単なる国家試験のための勉強というだけでなく、将来臨床の現場で接することになるであろう精神障害者について理解を深めてほしい。

授業科目	臨床運動学						
担当者	山岡真・渡部 雄太・山田隆人					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

正常の運動学の理論を踏まえて、臨床における病態臨床学を演習等を体験しながら理解を深める

■ 到達目標

正常の運動学の理論の理解を深める
臨床における病態臨床学の理解を深める

■ 授業計画

- 第1回 肩甲帯の動き (山岡)
- 第2回 肩の動き (山岡)
- 第3回 肘・前腕の動き (山岡)
- 第4回 手関節の動き (山岡)
- 第5回 手指の手関節の動き (山岡)
- 第6回 骨盤体幹の動き (山田)
- 第7回 股関節の動き (渡邊)
- 第8回 膝・下腿の動き (渡邊)
- 第9回 足関節 (距腿関節) (渡邊)
- 第10回 足関節 (距腿下関節等) (渡邊)
- 第11回 動作分析 (山岡)
- 第12回 寝返り (山岡)
- 第13回 立ち座り (渡邊)
- 第14回 歩行・杖歩行 (渡邊)
- 第15回 車椅子移動 (渡邊)
- 第16回 試験

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	欠席 (一回につき、-5点)、遅刻 (-2点)・早退 (-2点) は減点の対象とする。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

講義・演習の最後に、次回の子習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教 科 書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト
著者名：小柳磨毅、西村敦、山下協子、大西秀明著
出版社：金原出版株式会社

■ 参考図書

書名：理学療法・作業療法テキスト 運動学実習
著者名：石川郎、種村留美、小島悟、小林麻衣著
出版社：中山書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	臨床薬理学						
担当者	名徳 倫明 (実務経験者)・石田志門 (実務経験者)・池田宗一郎 (実務経験者)・ 下村裕章 (実務経験者)・藤岡重和 (実務経験者)						(オムニバス)
実務経験者の概要	科目担当者である石田、池田、下村、藤岡は、医療機関において内科医師として診療業務に従事している。 名徳は医療機関において薬剤師として業務に従事していた。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択	形式	

■ 内 容

リハビリテーション医療は、医師、療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療であり、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の理解、評価のために薬理学の基礎的知識が必要とされる。本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズムを学習する。特に、理学療法士、作業療法士の実地臨床上、重要である神経、筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬等については、症例提示により実践的知識の修得を目指す。東洋医学の基礎、漢方薬についても学習する。

■ 到達目標

1. 薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用を説明できる。
2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 臨床薬理学総論 (1) 薬剤の体内動態
名徳倫明 (実務経験者)
- 第2回 臨床薬理学総論 (2) 頻用薬剤の薬理作用、副作用
名徳倫明 (実務経験者)
- 第3回 臨床薬理学各論 (1) 脳卒中と治療薬
石田 (実務経験者)
- 第4回 臨床薬理学各論 (2) 神経疾患と治療薬
石田 (実務経験者)
- 第5回 臨床薬理学各論 (3) 呼吸器疾患と治療薬
池田宗一郎 (実務経験者)
- 第6回 臨床薬理学各論 (4) 各種感染症と治療薬
池田宗一郎 (実務経験者)
- 第7回 臨床薬理学各論 (5) 循環器疾患、生活習慣病の治療薬
下村裕章 (実務経験者) 藤岡重和 (実務経験者)
- 第8回 臨床薬理学各論 (6) 東洋医学の基礎、漢方薬、国試対策
下村裕章 (実務経験者) 藤岡重和 (実務経験者)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：臨床薬理学（NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 2）
著者名：古川裕之
出版社：MC メディカ出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床検査医学						
担当者	藤岡重和（実務経験者）津田泰宏（実務経験者）和田晋一（実務経験者）久田洋一（実務経験者）掛川泰朗						（オムニバス）
実務経験者の概要	科目担当者である藤岡，津田，久田は、医療機関において医師として診療業務に従事している。和田は臨床検査技師として、病院勤務をしている。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 必修 / OT 選択		

■ 内 容

リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。

■ 到達目標

1. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。
2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 生理機能検査学総論、生理機能検査学各論（1）心電図、運動負荷検査
 第2回 生理機能検査学各論（2）心電図、運動負荷心電図演習（不整脈、心筋虚血等）
 第3回 生理機能検査学各論（3）呼吸機能検査、血液ガス検査
 第4回 生理機能検査学各論（4）脳波検査、筋電図検査
 第5回 放射線医学総論、画像診断各論（1）胸部 X 線、CT 検査
 第6回 画像診断各論（2）腹部 X 線、CT、超音波検査
 第7回 画像診断各論（3）頭部 X 線、CT、MRI 検査、脳血管造影検査
 第8回 画像診断各論（4）頭部 CT、MRI 読影演習

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考	受講態度 10%。入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための画像診断マニュアル
 著者名：百島祐貴
 出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書名：生理機能検査学

著者名：大久保善朗

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	小児科学						
担当者	早島禎幸（実務経験者），藪中良彦（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	早島禎幸（小児科医として15年の実務経験） 藪中良彦（理学療法士として，肢体不自由施設で20年，小児訪問リハビリテーションで6年の実務経験）						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

理学療法士として必要な子どもの発達の知識を、運動発達を中心に学習する。

■ 到達目標

子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

■ 授業計画

- 第1回 I. 乳幼児健診・予防接種について（早島禎幸）
- 第2回 II. 新生児・未熟児疾患について（藪中良彦）
- 第3回 III. 発達障害について（早島禎幸）
- 第4回 IV. 先天性異常と遺伝子病について（藪中良彦）
- 第5回 V. 神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について（早島禎幸）
- 第6回 VI. 脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について（藪中良彦）
- 第7回 VII. 感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について（早島禎幸）
- 第8回 VIII. 循環器疾患について（藪中良彦）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	80	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	予習課題と小テスト（20点）、筆記試験（80点） 授業態度、出席状況（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

藪中担当講義では、次の授業の範囲を明示するので、その範囲の予習を行う。予習を行っていることを前提に、授業中に口頭試問を行う。また、第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト（20問程度の穴埋め問題）を行い、授業の復習を促す。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 小児科学
著者名：富田豊
出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：最新育児小児病学
著者名：黒田泰弘
出版社：南江堂

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。予習の課題等を Moodle に掲載するため、Moodle をしっかり確認してください。

■ 講義受講にあたって

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」及び「発達障害治療学Ⅰ，Ⅱ」で学ぶ障害のある子どもたちへの理学療法治療及び作業療法治療を理解するための基礎となる小児期の疾患を、「小児科学」でしっかりと学習してください。

授業科目	老年医学						
担当者	藤岡重和（実務経験者）・大中玄彦（実務経験者）・藤本宣正（実務経験者）・森田婦美子（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	科目担当である藤岡、大中、藤本は、医療機関において医師として老年期疾患の診療業務に従事している。森田は看護師としての実務経験を持つ。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	講義
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

著しい高齢化の進展に伴い高齢者の医療に対するニーズが高まっており、療法士が老年医学、高齢者医療に精通することが求められる。老化のメカニズム、加齢に伴う生理機能の変化を理解し、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その病態、臨床像、評価、治療を学習する。また、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。

■ 到達目標

1. 加齢に伴う生理機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、症候、評価、検査（画像、生理機能検査を含む）、診断、治療を説明できる。

■ 授業計画

第1回	老年医学総論（1） 老化と老年病の考え方 藤岡重和（実務経験者）	
第2回	老年医学総論（2） 加齢に伴う生理機能変化 藤岡重和（実務経験者）	
第3回	老年医学総論（3） 高齢者に多い症候とそのアセスメントについて 森田婦美子（実務経験者）	
第4回	老年医学総論（4） 老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ 森田婦美子（実務経験者）	
第5回	老年医学総論（5） 高齢者の医療、介護、福祉、ターミナルケア 森田婦美子（実務経験者）	
第6回	老年医学各論（1） 精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他） 森田婦美子（実務経験者）	
第7回	老年医学各論（2） 心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害） 大中玄彦（実務経験者）	
第8回	老年医学各論（3） 呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患） 大中玄彦（実務経験者）	
第9回	老年医学各論（4） 消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌） 大中玄彦（実務経験者）	
第10回	老年医学各論（5） 腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病） 大中玄彦（実務経験者）	
第11回	老年医学各論（6） 加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症 大中玄彦（実務経験者）	
第12回	老年医学各論（7） 骨、運動機能の老化と疾患、感覚機能の老化と疾患 藤岡重和（実務経験者）	
第13回	泌尿器科総論（解剖と生理、診断と検査法）、代表的な泌尿器疾患 藤本宣正（実務経験者）	
第14回	代表的な泌尿器疾患（尿路・生殖器の腫瘍、神経因性膀胱） 藤本宣正（実務経験者）	

第15回 総復習（国家試験対策）
藤岡重和（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	90	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート				
小テスト	◎	10	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。

■ 教科書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版
著者名：大内尉義
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：新老年学 第3版
著者名：大内尉義、秋山弘子、折茂肇
出版社：東京大学出版社

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

老年医学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学、内科学Iをよく理解しておく必要があります。
授業の前に十分復習をしておいてください。

授業科目	高次脳機能障害学 I						
担当者	掛川泰朗・中井俊輔・大野泰輔 (すべて実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高脳機能障害の概要〈遠隔授業〉
 第2回 注意障害〈遠隔授業〉
 第3回 記憶障害〈遠隔授業〉
 第4回 その他の失認
 第5回 半側空間無視
 第6回 失行
 第7回 失語
 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

授業の復習をすること。20分以上は必要である。小テストを実施する。

■ 教科書

書名：高次脳機能作業療法学(標準作業療法学)
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：高次脳機能障害マエストロシリーズ①基礎知識のエッセンス
 著者名：山鳥重ほか
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

欠席に気をつけること。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ						
担当者	掛川 泰朗（実務経験者）						
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。						
専攻(科)	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 選択 / OT 必修		

■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に作業療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害の検査方法を講義やグループワークで学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高次脳機能障害の特徴を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要・認知機能の検査（HDS-R・MMSE）《遠隔授業》
 第2回 注意の評価（TMT・かな拾いテスト）《遠隔授業》
 第3回 記憶の検査《遠隔授業》
 第4回 注意の評価（CAT）
 第5回 半側空間無視の検査（BIT）
 第6回 失行の検査（高次動作性検査）
 第7回 構成障害の検査（コース立方体検査）
 第8回 遂行機能の検査（WCST・BADS）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	60	%	
発表	◎	40	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害Ⅰの復習をしておく様に。1回につき20分以上はかかる。レポートに表せるように文献を読むこと。

■ 教科書

書名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価
 著者名：鈴木孝治ほか
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

欠席に気をつけること。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム (Moodle) を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	高次脳機能障害学Ⅲ						
担当者	林部 美紀 (実務経験者)・他					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として病院に勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

高次脳機能障害の各総合検査について、目的を理解し、演習を通して実習技術を習得し、結果より症状をまとめ、障害機序に沿った治療プログラムを立案できるようになる。

■ 到達目標

1. 高次脳機能の検査について解釈ができる。
2. 総合検査結果から症状を分析し、障害機序について考察できるようになる。
3. 障害機序に対応したリハビリテーションプログラムを立案できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 高次脳機能評価？治療の説明
- 第2回 症例検討1（脳血管障害）
- 第3回 症例検討発表
- 第4回 症例検討発表と解説
- 第5回 症例検討2（頭部外傷）
- 第6回 症例検討
- 第7回 症例検討と解説
- 第8回 臨床での高次脳機能障害とまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	50	%	
発表	◎	50	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害学ⅠとⅡで学んだ各高次脳機能障害の症状・評価方法・アプローチ方法を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害のリハビリテーション [DVD 付き] 実践的アプローチ
 著者名：本田哲三
 出版社：医学書院

■ 留意事項

欠席・遅刻に注意すること。意欲的に授業に参加すること。

■ 講義受講にあたって

授業科目	作業療法総合演習Ⅱ						
担当者	辻 郁・OT専任教員（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 内 容

相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を一部修得する。

特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を一部修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ③ 積極的・主体的な学生生活を送っている

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション グループ分け
- 第2回 作業療法と国際交流
- 第3回 作業療法と国際交流 -2
- 第4回 作業療法と国際交流 -3
- 第5回 作業療法紹介媒体を作成する
- 第6回 作業療法紹介媒体を作成する -2
- 第7回 作業療法紹介媒体を作成する -3
- 第8回 テーマに基づきリーフレットを作成する
- 第9回 テーマに基づきリーフレットを作成する -2
- 第10回 テーマに基づきリーフレットを作成する -3
- 第11回 リーフレット発表会
- 第12回 国家試験問題と解説を作成する
- 第13回 国家試験問題と解説を作成する -2
- 第14回 解答と解説
- 第15回 特別講演を聞く

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	70	%	
小テスト				
その他・備考	取り組み態度（欠席しない、積極的に取り組んでいる） 30%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる
指摘された重要事項を復習する
次回の課題遂行に必要な情報を収集し、資料等の準備を行う

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく

■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

授業科目	作業療法総合演習Ⅲ						
担当者	辻 郁・OT専任教員（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 内 容

相互関係学習システムを用いて、学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し、同時にリーダーシップ力を修得する。

特に本科目では、積極的かつ主体的な学生生活を送り、学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ③ 積極的・主体的な学生生活を送っている

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション グループ分け
- 第2回 作業療法と国際交流
- 第3回 作業療法と国際交流 -2
- 第4回 作業療法と国際交流 -3
- 第5回 作業療法紹介媒体を作成する
- 第6回 作業療法紹介媒体を作成する -2
- 第7回 作業療法紹介媒体を作成する -3
- 第8回 テーマに基づきリーフレットを作成する
- 第9回 テーマに基づきリーフレットを作成する -2
- 第10回 テーマに基づきリーフレットを作成する -3
- 第11回 リーフレット発表会
- 第12回 国家試験問題と解説を作成する
- 第13回 国家試験問題と解説を作成する -2
- 第14回 解答と解説
- 第15回 特別講演を聞く

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	70	%	
小テスト				
その他・備考	取り組み態度（欠席しない、積極的に取り組んでいる） 30%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる
指摘された重要事項を復習する
次回の課題遂行に必要な情報を収集し、資料等の準備を行う

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく

■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

授業科目	集団作業療法学						
担当者	足立一（実務経験者）・上原央（実務経験者）・平河真未（実務経験者）・楠本涼介（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当教員全てが、作業療法士として、医療、福祉施設にて、勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

配布資料を用いた講義と演習（グループ発表）
非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示

■ 到達目標

集団作業療法実践に必要な基本的技術を習得する。
ウォーミングアップ指導ができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 集団の定義と構造（実務経験者：足立一）
- 第2回 集団作業療法の治療因子・レベル（実務経験者：足立一）
- 第3回 交流分析と集団（実務経験者：足立一）
- 第4回 SSTと集団（実務経験者：足立一）
- 第5回 ウォーミングアップ（講義と演習）
- 第6回 ウォーミングアップ（グループ発表）
- 第7回 ウォーミングアップ（グループ発表）
- 第8回 ウォーミングアップ（グループ発表）
- 第9回 作業療法の実際（実務経験者：上原央 足立一）
- 第10回 作業療法の実際（実務経験者：上原央 足立一）
- 第11回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）
- 第12回 作業療法の実際（実務経験者：平河真未 足立一）
- 第13回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）
- 第14回 作業療法の実際（実務経験者：楠本涼介 足立一）
- 第15回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	30	%	
小テスト	◎	70	%	
その他・備考	小テストの内訳は実技テスト30点、ペーパーテスト40点			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法の実際の授業後はレポートを提出すること。
その他の授業の内容から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

■ 教科書

書 名：ひとと集団・場【新版】治療や援助、支援における場と集団のもちい方
著者名：山根寛
出版社：三輪書店

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	作業療法研究法						
担当者	井口知也（実務経験者）						
実務経験者の概要	学会および学術誌での研究の報告がある。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

作業療法の発展を支えるのは研究であることを理解し、研究に必要な基礎知識を学ぶ。また、演習を通じて、卒業論文実施計画書を作成する技術を身につける。各論の個々の内容は目標を参照。井口知也（実務経験者）本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

- 1) 研究疑問を立て、研究を進める方法を理解する
- 2) 研究の種類やデザインを理解する
- 3) 研究計画の具体的な手順を学び、実践することができる

■ 授業計画

- 第1回 作業療法研究法の概論：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
 第2回 研究とは何をするのか：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
 第3回 研究の種類と論文構成：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
 第4回 研究に関わる基礎知識：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
 第5回 研究論文の発表と手続き：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
 第6回 実際の作業療法研究事例について：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
 第7回 研究疑問の立て方と解決法：井口知也（実務経験者）
 第8回 文献検索（演習）：井口知也（実務経験者）
 第9回 文献検索（演習）：井口知也（実務経験者）
 第10回 研究計画の報告①はじめにから文献レビュー：井口知也（実務経験者）第11
 回 研究計画の報告②研究方法から倫理的配慮：井口知也（実務経験者）
 第12回 研究計画書の作成（演習）：井口知也（実務経験者）
 第13回 研究計画書の作成（演習）：井口知也（実務経験者）
 第14回 研究計画書の作成（演習）：井口知也（実務経験者）
 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	70	%	
小テスト				
その他・備考	<p>30%は出席と準備から振り返りまでの取り組み態度で評価する。</p> <p>※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする。（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。</p> <p>※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。</p>			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関する確認をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず、欠席、遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

「作業療法研究(卒業研究)」で必要になる研究計画書や研究活動などの基礎知識を「作業療法研究法」でしっかりと学習する。

授業科目	作業療法評価学 I						
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)・岡山友哉 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療機関にて勤務している。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

作業療法評価で用いる検査・測定にはどのようなものがあるのかを知り、その方法を実技によって学ぶ。

■ 到達目標

1. 作業療法場面で用いる検査・測定が理解できる。
2. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で実施できる (オリエンテーション・フィードバックを含む)。
3. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で判断し、正確に記載することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・ランドマークや運動方向の確認
関節可動域測定 (上肢)
- 第2回 関節可動域測定 (上肢・下肢)
- 第3回 関節可動域測定 (下肢・体幹・頸部)
- 第4回 関節可動域測定 (手指)
- 第5回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第6回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第7回 徒手筋力テスト (下肢)
- 第8回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第9回 徒手筋力テスト (体幹・頸部)
- 第10回 運動麻痺の検査
- 第11回 実技試験 (第1回～第10回)
- 第12回 反射検査・筋緊張の検査・握力とピンチ力・上肢機能検査
- 第13回 バランス検査・感覚検査
- 第14回 脳神経検査
- 第15回 実技試験 (第12回～第14回)

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)	◎	40	%	
レポート	◎	20	%	
実技試験	◎	40	%	
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内で全てを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行なっておくこと。レポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書名：作業療法評価学 第3版

著者名：矢谷玲子監修

出版社：医学書院

書名：新・徒手筋力検査法 第9版

著者名：Helen J.Hislop, Dale Avers ら

出版社：三輪書店

書名：ROM測定 第2版 (PT・OTのための測定評価 DVD シリーズ1)

著者名：福田修監修

出版社：三輪書店

■ 参考図書

書名：動画で学ぶ関節可動域測定法 ROM ナビ 増補改訂2版

著者名：青木主税ら

出版社：round Flat

■ 留意事項

欠席・遅刻に注意すること。正確な実技と記載を心がけること。

■ 講義受講にあたって

授業科目	作業療法評価学Ⅱ						
担当者	岡山友哉（実務経験者）・吉田文（実務経験者）・林部美紀（実務経験者）・澤田浩基（実務経験者）・久貝担矢（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	作業療法士として、医療・福祉施設にて実務経験がある						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域のそれぞれの作業療法対象者の特徴を講義や動画などで学ぶ。また、事例を検討しながら評価から統合と解釈の流れを学ぶ。

■ 到達目標

1. 身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域の作業療法対象者の特徴が理解できる。
2. 面接・観察・情報収集・検査測定の実施方法が分かる。
3. 全体像が分かる（ICFで整理し、情報を統合し解釈できる）。
4. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
5. 作業療法計画（長期・短期目標、具体的なプログラム）が立案できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法過程の復習
ICF分類と作業療法評価項目について
- 第2回 事例によるICFの図を作成する
- 第3回 身体障害の特徴説明
身体障害の評価計画
- 第4回 身体障害の評価（観察・情報収集・面接・検査測定）
- 第5回 身体障害の評価（検査測定）
- 第6回 身体障害の評価（検査測定・観察）
- 第7回 身体障害の統合と解釈（ICFで整理）
- 第8回 身体障害の統合と解釈（問題点の焦点化とICFで整理・目標設定）
- 第9回 身体障害の統合と解釈（作業療法プログラム立案・統合と解釈）
- 第10回 身体障害の統合と解釈（統合と解釈）
- 第11回 精神障害の特徴説明
- 第12回 精神障害の分析
- 第13回 精神障害の統合と解釈
- 第14回 発達障害の特徴説明
- 第15回 発達障害の分析・統合と解釈

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各領域の授業について予習を行っておくこと（指定教科書，その他，授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。次回の授業につながる内容に関しては，その日習った内容について復習しておくこと。指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。

■ 教科書

書名：標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学
著者名：岩崎テル子 他（編集）
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

他者に説明できるまで，調べて熟考すること。わからないままにしないこと。欠席遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

授業科目	身体障害治療学 I						
担当者	岡山 友哉 (実務経験者)・田中陽一 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として、医療機関にて実務経験がある。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

身体障害の作業療法の概要やアプローチを学ぶ。中枢疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、中枢疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。中枢疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

1. 身体障害の作業療法の概要やアプローチ方法を理解できる。
2. 中枢疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
3. 中枢疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
4. 中枢疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 身体障害作業療法の概論・様々な身体障害の作業療法アプローチ《遠隔授業》
- 第2回 脳卒中の概要《遠隔授業》
- 第3回 "脳卒中の作業療法評価（評価バッテリーの立案・ADL評価）《遠隔授業》
- 第4回 "脳卒中の作業療法アプローチ《遠隔授業》
- 第5回 "頭部外傷の概要と作業療法《遠隔授業》
- 第6回 "脊髄損傷の概要（臨床症状・神経症状の分類）《遠隔授業》
- 第7回 "脊髄損傷の概要（脊髄損傷患者の動画視聴）
- 第8回 "脊髄損傷の作業療法評価（一般的評価）
- 第9回 "脊髄損傷の作業療法アプローチ
- 第10回 "脊髄損傷の作業療法評価（実技）
- 第11回 "脳卒中の作業療法評価（実技）
- 第12回 中枢疾患の事例検討（症例紹介・グループワーク）
- 第13回 中枢疾患の事例検討（発表準備）
- 第14回 中枢疾患の事例検討 発表
- 第15回 痛みの評価

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学・生理学・運動学や中枢疾患の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間が30分以上必要である。授業後のレポート課題は必ず提出すること

■ 教科書

書名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学
著者名：編集：岩崎テル子他
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第2版
著者名：二瓶隆一ら 編著
出版社：協同医書出版社

書名：第3版 リハ実践テクニック 脳卒中
著者名：千田 富義, 高見彰淑 編集
出版社：メジカルビュー社

書名：動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション
著者名：藤島一郎, 柴本 勇 監修
出版社：中山書店

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。実技のある日はジャージ着用のこと。授業の実施方法については、変更されることもある。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	身体障害治療学Ⅱ						
担当者	岡山友哉（実務経験者）・熊野宏治（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として医療機関にて、勤務している。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

内部障害・神経筋疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法に応じて痰の吸引や実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 内部障害・神経筋疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 内部障害・神経筋疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 内部障害・神経筋疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・内部障害の概要・心疾患の概要
 第2回 心疾患の作業療法評価
 第3回 心疾患の作業療法アプローチ
 第4回 呼吸器疾患の概要と作業療法評価
 第5回 呼吸器疾患の作業療法アプローチ
 第6回 痰の吸引
 第7回 糖尿病の概要・作業療法評価とアプローチ
 第8回 がんの概要・作業療法評価とアプローチ
 第9回 神経筋疾患の概要
 第10回 パーキンソン評価と作業療法アプローチ
 第11回 脊髄小脳変性症・ギランバレー・筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の概要と作業療法評価とアプローチ
 第12回 内部障害・神経筋疾患の症例検討（壮麗紹介・グループワーク）
 第13回 内部障害・神経筋疾患の症例検討（症例発表）
 第14回 呼吸器疾患の作業療法評価とアプローチ例
 第15回 がんの作業療法評価とアプローチ例

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考	構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内で全てを網羅することは困難である。そのため、それぞれの疾患に関係する解剖学・生理学・運動学や疾患の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学
著者名：編集：岩崎テル子他
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：心臓リハビリテーション
著者名：上田正博
出版社：医歯薬出版株式会社

書名：がんのリハビリテーションガイドライン
著者名：公益社団法人 日本リハビリテーション医学会
がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会
出版社：金原出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。実技のある日はジャージ着用のこと。実技のある日はジャージ着用のこと。

■ 講義受講にあたって

授業科目	身体障害治療学Ⅲ						
担当者	林部美紀・松永伸志・岡山友哉（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	作業療法士として、病院に勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

整形外科疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。手の整形外科疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。整形外科疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 整形外科疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 整形外科疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 整形外科疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・手のROM, 手のMMT
- 第2回 手の骨折の概要
- 第3回 手の骨折の作業療法評価とアプローチ
- 第4回 末梢神経障害の概要
- 第5回 末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ
- 第6回 関節リウマチの概要
- 第7回 関節リウマチの作業療法評価とアプローチ
- 第8回 腱損傷の概要
- 第9回 腱損傷の・作業療法評価とアプローチ
- 第10回 熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第11回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第12回 変形性膝関節症の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第13回 手の整形外科疾患の症例検討（症例紹介・グループワーク）
- 第14回 手の整形外科疾患の症例検討（症例発表）
- 第15回 手の整形外科の作業療法評価とアプローチ例

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	40	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	20	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、各疾患に共通する解剖学・運動学や整形外科学の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。

■ 教科書

書名：標準作業療法学-専門分野 身体機能作業療法学 第3版

著者名：矢谷 令子監修

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：臨床ハンドセラピー

著者名：坪田貞子

出版社：文光堂

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。

■ 講義受講にあたって

実技の際は袖を捲り上げやすい服装とバスタオルを持参のこと。小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。

授業科目	精神障害治療学 I						
担当者	足立一（実務経験者）・松田匡弘（実務経験者）・櫛田理彩（実務経験者）・堀内勇志（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	担当教員全てが、作業療法士として、医療、福祉施設にて勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

教科書及び配布資料を用いた講義と演習
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示
 精神障害当事者との交流と演習
本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点を理解し、その介入方法を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 精神科の病, 精神障害とは？（実務経験者：足立一）《遠隔授業》
- 第2回 精神科治療（実務経験者：足立一）《遠隔授業》
- 第3回 精神科リハビリテーション《遠隔授業》
- 第4回 精神保健医療福祉の現状と歴史, 施策（実務経験者：足立一）《遠隔授業》
- 第5回 統合失調症の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）《遠隔授業》
- 第6回 気分障害及び神経症性障害の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）《遠隔授業》
- 第7回 オリエンテーション 精神科作業療法とは？（実務経験者：足立一）
- 第8回 統合失調症の作業療法（評価と治療）（実務経験者：足立一）
- 第9回 気分障害の作業療法（評価と治療）（実務経験者：足立一）
- 第10回 作業療法の実際（実務経験者：松田匡弘 足立一）
- 第11回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）
- 第12回 作業療法の実際（実務経験者：櫛田理彩 足立一）
- 第13回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）
- 第14回 神経症性障害の作業療法（評価と治療）（実務経験者：足立一）
- 第15回 まとめ（実務経験者：足立一）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	30	%	
小テスト	◎	70	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法の実際の授業後はレポートを提出すること。
 障害別の作業療法の内容から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

■ 教科書

書名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害
著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
出版社：協同医書出版社

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

授業の実施方法については、変更されることもありうる。講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

精神医学を復習しておくこと。

授業科目	精神障害治療学Ⅱ						
担当者	足立一（実務経験者）・芳賀大輔（実務経験者）・ 櫛田理彩（実務経験者）・南庄一郎（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	担当教員全てが、作業療法士として、医療、福祉施設にて勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

教科書及び配布資料を用いた講義と演習
 非常勤講師による臨床現場での実践報告と課題提示
 精神障害当事者との交流と演習

■ 到達目標

精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的知識と技術を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 精神障害治療学Ⅰの復習・確認（実務経験者：足立一）
- 第2回 精神作用物質による精神および行動の障害の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第3回 精神作用物質による精神および行動の障害の作業療法（評価と治療）（実務経験者：足立一）
- 第4回 発達障害の作業療法（疾患の基礎、評価と治療）（実務経験者：足立一）
- 第5回 器質性精神障害の作業療法（疾患の基礎、評価と治療）（実務経験者：足立一）
- 第6回 精神科作業療法評価（演習）（実務経験者：足立一）
- 第7回 精神科作業療法評価（演習）（実務経験者：足立一）
- 第8回 就労支援の精神科作業療法（基礎知識）（実務経験者：足立一）
- 第9回 就労支援の精神科作業療法（演習）（実務経験者：足立一）
- 第10回 作業療法の実際（実務経験者：芳賀大輔 足立一）
- 第11回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）
- 第12回 作業療法の実際（実務経験者：櫛田理彩 足立一）
- 第13回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）
- 第14回 作業療法の実際（実務経験者：南庄一郎 足立一）
- 第15回 作業療法の実際について解説及び討論（実務経験者：足立一）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	70	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法の実際や演習の授業後はレポートを提出すること。
 障害別の作業療法の内容から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

■ 教科書

書名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害
著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
出版社：協同医書出版社

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

精神医学及び精神障害治療学 I を復習しておくこと。

授業科目	発達障害治療学Ⅰ						
担当者	小林 哲理 (実務経験者)						
実務経験者の概要	発達障害児・者を対象とした児童療育機関等に勤務し、発達障害児・者を対象とした作業療法の経験を有する						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

子どもの生活における遊びや作業課題全般への関わりをもつ視点で、発達障害領域の作業療法を学習する。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

事例を感覚・知覚・認知・行動の発達とライフステージごとの活動、環境因子・個人因子との相互関係で説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、イントロダクション（発達障害領域の作業療法）《遠隔授業》
- 第2回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景①（粗大運動・微細運動）《遠隔授業》
- 第3回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景②（口腔運動発達）《遠隔授業》
- 第4回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景③（正常筋緊張、原始反射の統合と立ち直り平衡反応の出現）《遠隔授業》
- 第5回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達①（感覚統合とは？）《遠隔授業》
- 第6回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達②（感覚統合機能の発達）《遠隔授業》
- 第7回 子どもの発達と作業療法Ⅲ 認知・思考機能の発達（認知機能の発達過程）
- 第8回 子どもの発達と作業療法Ⅳ コミュニケーション機能の発達（非言語コミュニケーションと言語的コミュニケーション）
- 第9回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び①（遊びとは？遊びの機能による分類）
- 第10回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び②（集団の遊び、遊びの発達の意義）
- 第11回 子どもの発達と作業療法Ⅵ 子どもの心理・社会的発達とセルフケア（セルフケアの発達の前提、セルフケアの発達）
- 第12回 発達障害領域の作業療法評価Ⅰ（評価の焦点、流れ、情報収集および面接・観察の視点）
- 第13回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査①）
- 第14回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査②）
- 第15回 発達障害領域の作業療法評価Ⅲ（評価結果と障害構造の分析）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	70	%	※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	20	%	
小テスト	◎	10	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする。

復習：授業で行った教科書やプリントに目を通す。授業で指定した課題等に取り組む。

■ 教科書

書名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（改訂第2版）

著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実

出版社：株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

発達障害の理解には、運動発達、認知発達等の知識が不可欠となります。習得して活用できるように予習・復習をお願いします。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	発達障害治療学Ⅱ						
担当者	小林 哲理 (実務経験者)						
実務経験者の概要	発達障害児・者を対象とした児童療育機関等に勤務し、発達障害児・者を対象とした作業療法の経験を有する						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

発達障害治療学Ⅰの講義を踏まえて、疾患、障害、年齢別に作業療法における援助技法を学習・演習する。

■ 到達目標

発達障害領域の作業療法の実際について教科書とモデル事例を通じて理解する。
障害のある子どもの遊びや作業を可能にする援助技法の基本を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 疾患・障害別発達障害領域作業療法の実際（感覚統合機能、姿勢と運動及び心理・社会的機能へのアプローチ概論）①
- 第2回 疾患・障害別発達障害領域作業療法の実際（感覚統合機能、姿勢と運動及び心理・社会的機能へのアプローチ概論）②
- 第3回 脳性麻痺①（重度痙直型四肢麻痺児の特徴と作業療法アプローチ）
- 第4回 脳性麻痺②（中等度痙直型両麻痺児の特徴とアプローチ）
- 第5回 脳性麻痺③（方麻痺児の特徴とアプローチ）
- 第6回 脳性麻痺④（アテトーゼ型脳性麻痺児の特徴とアプローチ）
- 第7回 重症心身障害児への作業療法アプローチ
- 第8回 二分脊椎に対する作業療法アプローチ
- 第9回 デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する作業療法アプローチ
- 第10回 知的障害・Down症候群に対する作業療法アプローチ
- 第11回 発達障害概論
- 第12回 発達障害－広汎性発達障害の特徴と作業療法アプローチ
- 第13回 発達障害－注意欠陥多動症の特徴と作業療法アプローチ
- 第14回 発達障害－学習障害の特徴と作業療法アプローチ
- 第15回 家庭生活支援 ペアレントトレーニング、障害児の子育て支援

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	70	%	
小テスト	◎	30	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする
復習：授業該当箇所の教科書を読む。指定したプリントやレポート課題等に取り組む。該当箇所の国家試験問題を解く。授業で触れた治療方法を練習してみる

■ 教科書

書名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（改訂第2版）

著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実

出版社：株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

この授業は、発達障害治療学Ⅰの知識を前提としております。事前に、発達障害治療学Ⅰの授業で行った教科書の該当箇所を目を通してから授業に臨んでください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	老年期障害治療学 I						
担当者	井口知也（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者へ健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供 森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期～高齢期の方への就労支援プログラムを提供						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。老年期特有の障害に対する作業療法アプローチの概要やマネジメントを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。井口知也（実務経験者）、森本かえで（実務経験者）本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

- 1) 高齢者が生きてきた時代背景と社会の推移を理解する。
- 2) 高齢者の心身機能、その特性について理解する。
- 3) 老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考えられる。
- 4) 老年期作業療法で活用できる検査・測定方法を理解して実践できる。

■ 授業計画

- 第1回 高齢社会に伴う諸問題：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
- 第2回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
- 第3回 高齢期の特徴：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
- 第4回 介護保険制度：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
- 第5回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み、評価）1：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
- 第6回 老年期作業療法の実践（評価）2：井口知也（実務経験者）《遠隔授業》
- 第7回 老年期作業療法の実践（評価、実践例）3：井口知也（実務経験者）
- 第8回 老年期作業療法の実践（評価、実践例）4：井口知也（実務経験者）
- 第9回 老年期障害のマネジメント1：井口知也（実務経験者）
- 第10回 老年期障害のマネジメント2：森本かえで（実務経験者）
- 第11回 老年期疾患別作業療法（認知症）①：井口知也（実務経験者）
- 第12回 老年期疾患別作業療法（認知症）②：井口知也（実務経験者）
- 第13回 老年期疾患別作業療法（整形疾患）：井口知也（実務経験者）
- 第14回 老年期疾患別作業療法（中枢神経疾患）：井口知也（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考	※1 正当な理由がない欠席、遅刻早退は減点対象とする。（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき－5点）。※2 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際，前回の内容に関しての発表をしたり，レポートを提出する。

また，講義前に予習として教科書を読んできること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版

著者名：山田 孝 編集

出版社：中央法規

■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期

著者名：村田 和香 編集

出版社：協同医書出版社

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学

著者名：太田 陸美 編集

出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法 第2版

著者名：小川 敬之，竹田 徳則 編集

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず，欠席，遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。授業の実施方法については，変更されることもありうる。その際には，講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

「老年期障害治療学Ⅰ」は「老年期障害治療学Ⅱ」「作業療法治療学実習ⅠⅡ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習ⅠⅡ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち，作業の意味をしっかりと捉えること。その上で，高齢者にとっての作業とは何かを考え，生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

授業科目	老年期障害治療学Ⅱ						
担当者	井口知也（実務経験者）・森本かえで（実務経験者）・熊野宏治（実務経験者）						（オムニバス）
実務経験者の概要	井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者へ健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供 森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期～高齢期の方への就労支援プログラムを提供 熊野宏治（実務経験者）：身体障害領域の病院で青年期～高齢期の方への整形疾患、呼吸器疾患、がんなどの作業療法を担当						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

高齢者の特性に合わせた評価の方法、高齢者に対して使用頻度の高い生活評価、身体機能評価、認知機能評価、心理機能評価の実施方法などについて演習を実施する。評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び、個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。

井口知也（実務経験者）、森本かえで（実務経験者）、熊野宏治（実務経験者）

■ 到達目標

- 1) 老年期での作業療法実践に必要な知識と技術の習得を目指す。
- 2) 高齢者を対象とした作業療法プログラムを立案できる。
- 3) 高齢者を対象とした作業療法プログラムの効果判定ができる。

■ 授業計画

- 第1回 老年期障害治療学Ⅰの振り返りと老年期障害治療学Ⅱのオリエンテーション：井口知也（実務経験者）
- 第2回 老年期作業療法の実際（プロセス）：井口知也（実務経験者）
- 第3回 老年期作業療法の実際（検査測定）：井口知也（実務経験者）
- 第4回 老年期作業療法の実際1（計画立案と実施、統合と解釈）：井口知也（実務経験者）
- 第5回 老年期作業療法の実際2（統合と解釈、解決策の絞り込み）：井口知也（実務経験者）
- 第6回 老年期作業療法の実際3（解決策の絞り込み、再評価）：井口知也（実務経験者）
- 第7回 施設系（入所）サービスにおける作業療法：井口知也（実務経験者）
- 第8回 施設系（通所）サービスにおける作業療法：森本かえで（実務経験者）
- 第9回 認知症高齢者に対する事例検討1（アルツハイマー型認知症）：井口知也（実務経験者）
- 第10回 認知症高齢者に対する事例検討2（その他の認知症）：井口知也（実務経験者）
- 第11回 中枢神経疾患に対する事例検討1（身体障害回復期）：井口知也（実務経験者）
- 第12回 中枢神経疾患に対する事例検討2（生活期）：井口知也（実務経験者）
- 第13回 がんに対する事例検討：熊野宏治（実務経験者）
- 第14回 整形疾患に対する事例検討：井口知也（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%
レポート	◎	40	%
小テスト			
その他・備考	※1 正当な理由がない欠席，遅刻早退は減点対象とする。（無断遅刻・無断欠席は－10点、事前連絡のある遅刻・欠席は－3点とする）。 ※2 提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象とする（1回につき - 5点）。 ※2 試験時に不正な行為があったと認められた者については，規程に定める第16条を適用し，当該学期の全ての試験を無効とし，失格（留年）とする。		

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際，前回の内容に関するの発表をしたり，レポートを提出する。また，講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
著者名：山田 孝 編集
出版社：中央法規

■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期
著者名：村田 和香 編集
出版社：協同医書出版社

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学
著者名：太田 陸美 編集
出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法 第2版
著者名：小川 敬之，竹田 徳則 編集
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。正当な理由の有無に関わらず，欠席，遅刻の場合は担当者に必ず連絡すること。

■ 講義受講にあたって

「老年期障害治療学Ⅱ」は「作業療法治療学実習Ⅱ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習ⅠⅡ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち，作業の意味をしっかりと捉えること。その上で，高齢者にとっての作業とは何かを考え，生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

授業科目	作業療法治療学実習 I						
担当者	辻 郁・OT専任教員 (すべて実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し、作業療法評価（作業療法に関連する情報収集と情報の統合もよび課題の焦点化と作業療法計画立案）を実施し、ICFの枠組みで系統立てて報告する

■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法評価計画が立案できる
3. 正確な情報が収集できる
4. 情報を統合し、ICFの枠組みで対象者を理解できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 関連する医学的知識を修得する 評価計画を立案する
- 第3回 情報収集実践 1 以下、評価各グループの計画に基づいて5回実践する
- 第4回 フィードバック
- 第5回 情報収集実践 2
- 第6回 フィードバック
- 第7回 情報収集実践 3
- 第8回 フィードバック
- 第9回 全体フィードバック
- 第10回 情報収集実践 4
- 第11回 フィードバック
- 第12回 情報収集実践 5
- 第13回 フィードバック
- 第14回 まとめと報告
- 第15回 報告書作成

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	臨床実習評価表に基づく評価 100% 入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

実践に関連する知識と技術を習得し練習しておくこと
 実践後には、レポートをまとめ必要な知識を深化させておくこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるから、普段の講義以上に真摯な態度で臨むこと

■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本授業に臨むための準備は不可欠です。十分な準備をしましょう。

授業科目	作業療法治療学実習Ⅱ						
担当者	辻 郁・OT専任教員（すべて実務経験者）					(オムニバス)	
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し、作業療法（作業療法計画と実践）を実施し、ICFの枠組みで系統立てて報告する

■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法に必要な情報収集を正確にできる
3. 作業療法評価ができる
4. 計画に基づいた作業療法が実施できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

■ 授業計画

- 第1回 ①授業オリエンテーション ②協力者紹介 ③OT評価計画
 第2回 計画に基づく情報収集とフィードバック 以下、評価計画に基づいて4回の実践を行う
 第3回 計画に基づく情報収集とフィードバック
 第4回 計画に基づく情報収集とフィードバック
 第5回 計画に基づく情報収集とフィードバック
 第6回 客観的臨床能力試験
 第7回 客観的臨床能力試験
 第8回 情報の統合と作業療法計画立案
 第9回 作業療法の実施とフィードバック 以下、作業療法計画に基づいて4月回実施する
 第10回 作業療法の実施とフィードバック
 第11回 記録の整理と作業療法計画再立案/準備
 第12回 作業療法の実施とフィードバック
 第13回 作業療法の実施とフィードバック
 第14回 まとめと報告
 第15回 報告書作成

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	臨床実習評価表に基づく評価 100%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

実践に関連する知識と技術を習得し練習しておくこと
 実践後には、レポートをまとめて必要な知識を深化させておくこと

■ 教科書

書名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるから、普段の講義以上に真摯な態度で臨むこと

■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本授業に臨むための準備は不可欠です。十分な準備をしましょう。

授業科目	動物と作業療法						
担当者	黒川晶平 (実務経験者)・木村佳友・水上 言 (実務経験者)・ 吉田 文 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	黒川晶平 (実務経験者)：獣医として動物リハビリテーションに携わる水上 言 (実務経験者)： 介助犬トレーナーとして介助犬の育成・啓発、障害者の支援に携わる吉田 文 (実務経験者)： 作業療法士として介助犬の導入、合同訓練への協力など介助犬使用者のリハビリテーションに 携わる、また精神科病院、認知症デイケアで動物介在療法を実施						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬(介助犬)を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や実務経験者による事例紹介や臨床を再現した体験学習を含めて授業を展開する。

■ 到達目標

1. ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
2. ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
3. ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 人と動物の関わり
- 第2回 動物介在療法、動物リハビリテーション、身体障害者補助犬の概要
吉田 文 (実務経験者)
- 第3回 動物リハビリテーション① (概要)
黒川晶平 (実務経験者)
- 第4回 動物リハビリテーション② (疾患と評価)
黒川晶平 (実務経験者)
- 第5回 動物介在療法① (概要)
吉田 文 (実務経験者)
- 第6回 動物介在療法② (作業療法と動物介在療法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第7回 動物介在療法② (作業療法における展開例)
吉田 文 (実務経験者)
- 第8回 動物介在療法③ (演習)
吉田 文 (実務経験者)
- 第9回 動物介在療法④ (まとめ) 課題①動物介在療法復習課題
- 第10回 身体障害者補助犬① (盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第11回 身体障害者補助犬② (介助犬と作業療法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第12回 身体障害者補助犬③ (介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携)
水上 言 (実務経験者)
- 第13回 身体障害者補助犬④ (介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために)
- 第14回 身体障害者補助犬⑤ (まとめ) 課題②身体障害者補助犬復習課題
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	リアクションペーパー 20% 提出課題 30% 出席を基本とする授業のため遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。 またリアクションペーパー、課題提出の遅れや不備は減点対象。 遅れは当日中であれば2/3点、翌日は1/3点。2日目以降加点なし。但し提出すればFBは行う。 また、不備があった場合、軽微なもの-1点～重大なもの-3点で判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル

著者名：古川 宏

出版社：医歯薬出版

書名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版

著者名：能登真一 山口昇 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法

著者名：高柳友子他

出版社：医歯薬出版

書名：よくわかるアニマルセラピー—動物介在療法の基礎とケーススタディ

著者名：メリー・R. パーチ

出版社：インターズー

書名：BSAVA 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法

著者名：長谷川篤彦 監修

出版社：学窓社

書名：犬のリハビリテーション

著者名：北尾貴史 他監訳

出版社：インターズー

書名：犬と猫のリハビリテーション実践テクニック

著者名：枝村一弥他 訳

出版社：インターズー

書名：介助犬を知る

著者名：高柳哲也

出版社：名古屋大学出版会

書名：介助犬を育てる少女たち—荒れた心の扉を開くドッグ・プログラム

著者名：大塚敦子

出版社：講談社

書名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月

著者名：NHK プリズンドッグ取材班

出版社：ポット出版

■ 留意事項

人と動物の関わる作業の理解と同時に、この科目は作業療法の基本である作業分析や段階付け、作業の治療的応用について学習する。作業療法での利用にむずびつけられるように学習してほしい。

■ 講義受講にあたって

授業科目	スポーツと作業療法						
担当者	足立一（実務経験者）・中尾拓（実務経験者）・山田隆人（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当教員全てが、作業療法士として、医療、福祉施設にて勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

発達上の障害や障害者スポーツ、正常発達、リスク管理、社会資源について講義と演習を行う。
科目担当者の指導の下、スポーツを通じた障害児童への介入を通して作業療法評価の演習を行う。

■ 到達目標

障害児童へのスポーツを実施する上で最低限必要な知識（障害特性、正常発達、リスク管理、社会資源）を習得する。

スポーツを通して障害児童に対する安全な介入ができる。

スポーツを通して障害児童の健全な成長を促す介入ができる。

スポーツを通して障害児童に対する作業療法評価を一度体験する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 発達障害とは？代表的な疾患 復習と講義（実務経験者：足立一）
 第2回 正常発達とは？復習と講義（実務経験者：足立一）
 第3回 障害者スポーツの現状と課題 講義（実務経験者：足立一）
 第4回 リスク管理と応急処置 講義と演習（実務経験者：足立一）
 第5回 初期情報収集 演習（実務経験者：足立一）
 第6回 作業療法評価計画 講義と演習（実務経験者：足立一）
 第7回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）
 第8回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）
 第9回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）
 第10回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）
 第11回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）
 第12回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）
 第13回 最終情報収集 演習（実務経験者：足立一）
 第14回 作業療法評価体験 演習（実務経験者：足立一）
 第15回 作業療法評価体験 演習（実務経験者：足立一）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。
レポート	◎	40	%	
小テスト	◎	60	%	
その他・備考	小テストの内訳は実技テスト 30点、ペーパーテスト 30点			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

作業療法評価体験後はレポートを提出すること。

その他の授業から小テストを実施するため、授業後は復習すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	芸術と作業療法						
担当者	鈴木暁子（実務経験者）、有賀喜代子（実務経験者）橋本弘子（実務経験者）、吉田 文（実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	鈴木暁子（実務経験者）：臨床心理士および音楽療法士として青年期～老年期まで様々な施設で音楽療法を実施有賀喜代子（実務経験者）：作業療法士として精神障害・知的障害を中心に様々な施設で絵画療法を実施橋本弘子（実務経験者）：作業療法士として身体障害・精神障害の様々な施設でダンスセラピーを実施吉田 文（実務経験者）：作業療法士として精神科作業療法において芸術を用いるプログラム全般に携わる						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

「芸術」にはこれまでに様々な解釈があるが、この科目では芸術を広く解釈し作業療法にどのように用いるかを中心に学習する。芸術活動の意味・価値、自己表現としての芸術、人の生活に芸術はどのような影響を及ぼすのか、芸術はどのように治療に生かされるかなどをグループ活動などにより学ぶ。障害当事者と活動を共有し、各実務経験者の指導や臨床での応用を体験する方法を用いる。本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、障害当事者との活動共有の代わりに学生同士で活動を共有し、指導や臨床での応用を体験する。また、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする。

■ 到達目標

1. 芸術に分類される作業活動と人の生活にどのような影響を及ぼすのかを述べることができる
2. 芸術を用いた作業療法の実践について説明できる
3. 芸術活動を作業療法の中でどのように展開していくか計画が立てられる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、芸術とは？医療福祉と芸術が関わるところ（遠隔授業）
吉田 文（実務経験者）
- 第2回 今こそ家で芸術体験！（遠隔授業） 吉田 文（実務経験者）
- 第3回 アロマセラピー 基礎（遠隔授業） 吉田 文（実務経験者）
- 第4回 アロマセラピー 応用（遠隔授業） 吉田 文（実務経験者）
- 第5回 "臨床場面での作業活動の支援（教科書）、集団作業療法（教科書）、（遠隔授業）
吉田 文（実務経験者）
- 第6回 活動分析の復習（教科書）、観察記録の書き方（遠隔授業） 吉田 文（実務経験者）
- 第7回 ダンスセラピー 基礎 橋本弘子（実務経験者）
- 第8回 "ダンスセラピー 課題の説明 年代による作業の目的や指導方法の違い
絵画療法の活動計画の説明 吉田 文（実務経験者）"
- 第9回 音楽療法 基礎 鈴木暁子（実務経験者）
- 第10回 絵画療法 基礎 学生体験 有賀喜代子（実務経験者）
- 第11回 ダンスセラピー 治療的応用 橋本弘子（実務経験者）
- 第12回 絵画療法活動計画 レポート作成 吉田 文（実務経験者）
- 第13回 音楽療法 治療的応用 鈴木暁子（実務経験者）
- 第14回 絵画療法 学生生活動運営体験 有賀喜代子（実務経験者）
- 第15回 絵画療法 学生生活動運営体験 レポート修正 まとめ 吉田 文（実務経験者）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート	◎	50	%	
小テスト				
その他・備考	リアクションペーパー 20% 課題提出 30% 出席を基本とする授業のため遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。 また提出物の遅れや不備は減点対象。遅れは当日中であれば2/3点、翌日は1/2点。2日目以降加点なし。但し提出すればFBは行う。 不備があった場合、軽微なもの-1点～重大なもの-3点で判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル

著者名：古川 宏

出版社：医歯薬出版

書名：ICF 国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 -

著者名：障害者福祉研究会

出版社：中央法規出版

■ 参考図書

書名：芸術と福祉

著者名：藤田治彦

出版社：大阪大学出版会

書名：ホスピスが美術館になる日 ケアの時代とアートの未来

著者名：横川善正

出版社：ミネルヴァ書房

書名：進化するアートコミュニケーション

著者名：林容子・湖山泰成

出版社：レイライン

書名：感覚統合を活かして子どもを伸ばす 「音楽療法」 苦手に寄り添う音楽活動

著者名：土田玲子

出版社：明治図書出版

書名：パーキンソン病はこうすれば変わる！ - 日常生活の工夫とパーキンソンダンスで生活機能を改善

著者名：橋本 弘子

出版社：三輪書店

書名：ダンスセラピー入門 リズム・ふれあい・イメージの療法的機能

著者名：平井タカネ編著

出版社：岩崎学術出版

書名：こころを癒す音楽

著者名：北山修

出版社：講談社

書名：音楽療法入門（上）理論編

著者名：日野原重明 他

出版社：春秋社

書名：音楽療法入門（下）実践編

著者名：日野原重明 他

出版社：春秋社

書名：誰でも描けるキミ子方式 楽しみ方・教え方入門

著者名：楽しい授業編集委員会

出版社：仮説社

書名：アロマセラピーのための精油ハンドブック

著者名：日本アロマセラピー学会

出版社：丸善出版

書名：香りで心と体を整える

著者名：千葉直樹

出版社：フレグランスジャーナル社

書名：香りで痛みを和らげる ある整形外科医の処方箋から（香りで美と健康シリーズ3）

著者名：千葉直樹

出版社：フレグランスジャーナル社

書名：現場で実践されている「心と身体にアロマケア」 介護に役立つアロマセラピーの教科書

著者名：櫻井かつみ

出版社：BAB ジャパン

書名：メディカル・アロマセラピー（補完・代替医療）改定第3版

著者名：今西二郎

出版社：金芳堂

書名：香りはなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療

著者名：塩田清二

出版社：NHK 出版

書名：アロマの香りが認知症を予防改善する

著者名：浦上克哉

出版社：宝島社

書名：病院のアート 医療現場の再生と未来

著者名：森口ゆたか

出版社：アートミーツケア叢書

■ 留意事項

障害当事者の皆さんが演習協力者として参加します。臨床実習同様、基本の接遇を守り臨んでください。遅刻・欠席は事前にメールで連絡をしてください。授業の実施方法については、変更されることもありうる。その際には、講義システム (moodle)を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	福祉用具と作業療法						
担当者	山田 隆人 (実務経験者)						
実務経験者の概要	診療所、訪問看護ステーションにて作業療法士として勤務 専門作業療法士 (作業療法士協会)、二級建築士免許証を有する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

障害を持つ方々が社会生活を送る際、社会参加する際に、それぞれの置かれている環境や提供できるサービスや使用している道具により、可能になる作業には差が生じる。

本講義では、社会生活の課題別に環境調整を行うための生活評価や環境調整方法を学び、理解を深める。事例を通して、課題解決に向けた演習を行う。

■ 到達目標

障がいを持つ方々の社会生活について理解する

障がいを持つ方々が社会生活を送る上での課題について理解する

障がいを持つ方々への環境調整方法を理解する

障がいを持つ方々へ環境調整方法を検討する

■ 授業計画

- 第1回 義肢の理解とスポーツに関わる義肢1
- 第2回 義肢の理解とスポーツに関わる義肢2
- 第3回 車椅子の理解と適合1
- 第4回 車椅子の理解と適合2
- 第5回 福祉用具の開発と制作1
- 第6回 福祉用具の開発と制作2
- 第7回 義手のつくりの理解および義手の適合1
- 第8回 義手のつくりの理解および義手の適合2
- 第9回 スプリントの理解及び適合及び作成1
- 第10回 スプリントの理解及び適合及び作成2
- 第11回 環境計測実習1
- 第12回 環境計測実習2
- 第13回 住宅改修の法制度および改修場所および内容1
- 第14回 住宅改修の法制度および改修場所および内容2
- 第15回 住宅改修事例検討1
- 第16回 住宅改修事例検討2

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	講義内および講義外でのレポート課題を複数回設定する。欠席の場合は、提出課題および内容の評点が加算されない。入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教科書

書名：生活環境学テキスト

著者名：監修 細田多穂

出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

本講義は、外部講師の協力の下で行う講義・演習および演習課題がある。その為、日程等は外部との調整により、講義日程・進行は変更されることがある。また、学外での見学等を行う予定にしている。集合場所および服装等は、見学等の内容に応じて、指定する場合がある。

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床ゼミナールⅡ						
担当者	吉田 文 (実務経験者)						
実務経験者の概要	精神科病院における作業療法の臨床経験および臨床実習指導の経験						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義 形式	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

臨床評価学実習Ⅰの記録等を利用して学習を進める。評価内容（観察・面接・検査・測定など）のより深い理解、記録の書き方の復習、記録の修正点と次回の実習のための対策を考える。また、学生自身の作業療法対象者やスタッフとの関わり方について再検討する。さらに、文献等を調べ、作業療法対象者への理解を深め、3年次の評価・治療の理解へとつなげていく。適宜グループでのディスカッションを用い、相互に学習を深める。

■ 到達目標

1. 記録等から、評価内容（観察・面接・検査・測定など）と学生自身の関わり方の課題を説明 することができる
2. 評価やその記録、自身の関わり方の修正を行うための対策を立てることができる
3. 文献等を参考に臨床実習で経験した作業療法をどのように理解できたか説明することができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、①実習の振り返り②ディスカッション
- 第2回 担当事例についてグループで質疑応答
- 第3回 自分の苦手と得意の分析、3年に向かっての対策
- 第4回 担当事例の質疑応答でわかった理解不足の点について文献を用い調べる（疾患、評価や治療の目的など）
- 第5回 記録の書き方の復習と記録の補足
- 第6回 担当事例と似ている事例報告または教科書（2文献以上）を探し、読む、わからない言葉を調べる
- 第7回 自己の実習の振り返りのまとめ、目標を作成する
- 第8回 実施した評価項目と文献の評価項目を比較、担当事例で不足している評価をあげ、まとめる
- 第9回 文献の統合と解釈を模倣し統合と解釈を担当事例にあてはめて考える、書く
- 第10回 担当事例の統合と解釈を書く①（説明と準備）
- 第11回 担当事例の統合と解釈を書く②（完成）
- 第12回 発表（9名）
- 第13回 発表（10名）
- 第14回 発表（9名）
- 第15回 発表（9名）

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	ポートフォリオ（内容・形式） 30% 最終発表原稿（内容・形式） 30% 発表（質疑応答）（態度・内容） 40%			
	出席を基本とする授業のため遅刻・早退－2点、欠席－5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。 またポートフォリオ、課題提出の遅れや不備は減点対象。 遅れは当日中であれば2/3点、翌日は1/3点。2日目以降加点なし。但し提出すればFBは行う。 また、不備があった場合、軽微なもの-1点～重大なもの-3点で判断する。			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：ICF 国際生活機能分類 - 国際障害分類改定版 -

著者名：世界保健機関（WHO）

出版社：中央法規

書名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版

著者名：能登真一 山口昇 他

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：授業内で随時提示する

■ 留意事項

3年次の臨床評価学実習Ⅱに向けての大切なステップとなる授業である。臨床評価学実習Ⅰで経験したことが活かされるように、自ら学ぶ姿勢で取り組むことを期待する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床ゼミナールⅢ						
担当者	辻 郁 (実務経験者)						
実務経験者の概要	(辻 郁) 作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	演習
		開講時期	後期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

作業療法治療学実習Ⅱとリンクさせ、課題に応じて自己学習する。その結果を口頭報告とレポート作成で示す

臨床評価学実習Ⅱの準備をする(必要な技能を修得する)ための実践学習を行う

■ 到達目標

- 1) 作業療法治療学実習Ⅱで担当する当事者の理解を深める(口頭とレポートで説明できる)
- 2) 担当事例に関する専門基礎科目領域の知識を定着する
- 3) 運動機能の検査測定/評価技能を習得できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める(ケースノート作成)
- 第3回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める(学修と関連する問題作成)
- 第4回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める(ケースノート作成)
- 第5回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める(学修と関連する問題作成)
- 第6回 臨床評価学実習Ⅱ 事前学習及び臨床能力確認
- 第7回 臨床評価学実習Ⅱ 事前学習及び臨床能力確認
- 第8回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める(ケースノート作成)
- 第9回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める(学修と関連する問題作成)
- 第10回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める(ケースノート作成)
- 第11回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める(学修と関連する問題作成)
- 第12回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める(ケースノート作成)
- 第13回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める(学修と関連する問題作成)
- 第14回 臨床評価学実習Ⅱ 事前学習及び臨床能力確認
- 第15回 臨床評価学実習Ⅱ 事前学習及び臨床能力確認

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	ケースノートの評価は作業療法治療学実習Ⅱの成績に反映させる 実技試験（臨床能力確認試験）100%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時に持参すべきテキスト等の確認をしておくこと

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

必要な参考図書，文献を準備して臨むこと
それぞれ自己課題を掲げ，授業経過の中で自己課題を明確化すること

■ 講義受講にあたって

これまでのすべての学修が基盤となって進みます。臨地実習に出る前の最終準備として取り組んでください。

授業科目	総合作業療法学						
担当者	吉田 文 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	作業療法士として精神科病院、認知デイケアで勤務していた。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位	講義形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

今まで得て来た知識を総動員し、国家試験の知識が身につくように、講義・グループワークをメインに行う授業である。

■ 到達目標

今まで得て来た知識を総動員し、国家試験の知識が身につくように、講義・グループワークをメインに行う授業である。

■ 授業計画

- 第1回 国家試験オリエンテーション
- 第2回 東京アカデミー
- 第3回 東京アカデミー
- 第4回 東京アカデミー
- 第5回 小テスト1回目
- 第6回 小テスト2回目
- 第7回 小テスト3回目
- 第8回 小テスト4回目
- 第9回 小テスト5回目
- 第10回 中間テスト1回目
- 第11回 小テスト6回目
- 第12回 小テスト7回目
- 第13回 小テスト8回目
- 第14回 小テスト9回目
- 第15回 中間テスト2回目

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)	◎	50	%	
レポート	◎	40	%	
課題	◎	10	%	
その他・備考				

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

国家試験に関連する書籍、問題等について見直すこと

■ 教科書

書 名：クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2020共通問題
 出版社：医療情報科学研究所 ご指定いただいた参考図書は図書館で所蔵し、学生に提供します。

書 名：クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2020共通問題
 出版社：医療情報科学研究所

■ 参考図書

--

■ 留意事項

遅刻・欠席のないようにしてください。

■ 講義受講にあたって

4年間の総まとめの授業になります。今までの知識をフル活用してください。

授業科目	生活支援作業療法学						
担当者	辻 郁・田中歩・小野稿樹・多崎紗耶香（すべて実務経験者）					（オムニバス）	
実務経験者の概要	<p>（辻 郁）作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた。</p> <p>（田中 歩）老人保健施設において長年、作業療法士として入所・在宅の身体・認知症高齢者及び家族等に対する生活支援を経験されている。老人保健施設における作業療法士の機能・役割について学ぶ</p> <p>（小野 稿樹）進行性の神経難病の方々を中心とした訪問リハビリテーション領域において長年、作業療法士として活躍されている。神経難病の方々に対する作業療法の実際（機能と役割）を学ぶ</p> <p>（多崎 紗耶香）重度の精神障害がある方々に対して作業療法士としてACT（包括型地域生活支援プログラム）を使った地域生活支援を長年経験されている。ACTの概念と機能・役割を学ぶ</p>						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

様々なニーズをもつ障害児・者や高齢者等が地域社会の中で《いきいき》と、そして質の高い生活を送ることができるようために作業療法（士）は、何を提供することができるのか？当事者の豊かな生活を支えるために必要な作業療法の機能・役割について学ぶ。また、ライフステージごとにおける生活の変化に関連づけながら生活支援という視点から作業療法について考察する。本講義は、新型コロナウイルス間延焼対策のため、以下のとおり遠隔授業による授業運営とする

■ 到達目標

- ① 地域作業療法の理念や目的を理解する。
- ② 地域概況を知る視点と地域の健康課題を推測できる/解決策を提案できる
- ③ ライフステージ及び障害等に起因する生活の変化に応じたあ作業療法の実践を理解する
- ④ ライフステージの変化や当事者が希求する生活に応じた法制度等を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 生活支援作業療法における作業療法士の仕事 《遠隔授業》
- 第2回 感染症による生活障害と作業療法的対応 《遠隔授業》
- 第3回 地域を評価する（地区診断）-1 《遠隔授業》
- 第4回 地域を評価する（地区診断）-2 《遠隔授業》
- 第5回 地域づくりとヘルスプロモーション 《遠隔授業》
- 第6回 地域づくり 施策案立案 《遠隔授業》
- 第7回 地域づくりとヘルスプロモーション 《遠隔授業》
- 第8回 地域づくり 施策案立案完成 《遠隔授業》
- 第9回 地域作業療法における評価の視点
- 第10回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（乳児期～学童期～思春期）
- 第11回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（青年期～壮年期～老年期）
- 第12回 生活支援に関連する法制度・施策（乳児期～学童期～思春期）
- 第13回 生活支援に関連する法制度・施策（青年期～壮年期～老年期）
- 第14回 老人保健施設における作業療法について（実務経験者：田中歩）
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）	◎	60	%	
レポート	◎	40	%	
小テスト				
その他・備考				

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業に関連する情報等について調べておくこと

■ 教科書

書名：地域作業療法学
著者名：小川恵子
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：地域作業療法学
著者名：太田睦美
出版社：協同医書出版

■ 留意事項

既存の資料等を活用して選択の幅を広げ、積極的に授業に臨むこと
授業の実施方法については変更されることもありうる。その際には講義支援システム（Moodle）を通じて周知する

■ 講義受講にあたって

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと

授業科目	就労支援作業療法学						
担当者	辻 郁 ・ 酒井京子 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	(酒井京子先生) 身体・知的・精神・発達障害者の方たちへの就労支援を約 30 年行ってきた経験を元に就労支援の現状と作業療法の可能性について学ぶ(元: サテライトオフィス平野所長(発達障害者支援)、現: 大阪市職業リハビリテーションセンター所長)						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位	講義	講義
		開講時期	前期	選択・必修	必修	形式	

■ 内 容

職業リハビリテーションの理念と意義及び歴史等について学ぶ。また、職業リハビリテーション領域における作業療法(士)の機能と役割についても理解を深める。さらに障害種別ごとのアプローチの違いや職業評価についても学習する。職業リハビリテーション施設の見学も含めて学習を行う

■ 到達目標

- ①職業リハビリテーションの理念・意義等について説明できる。
- ②職業リハビリテーションにおいて作業療法(士)が果たす役割が説明できる。
- ③就労ニーズをもつ障害者に対する作業療法評価と介入の方法を理解できる。
- ④障害種別ごとの就労支援の違いを理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 職業リハビリテーションの歴史・意義等について(人にとって仕事・職業とは)
- 第2回 障害者の就労支援における法制度について(障害者雇用促進法を中心に)
- 第3回 日本における障害者雇用の実態について
- 第4回 職業リハビリテーションの原理について
- 第5回 職業リハビリテーション領域における関連職種について
- 第6回 職業リハビリテーションにおける作業療法(士)の機能と役割(1)
- 第7回 職業リハビリテーションにおける作業療法(士)の機能と役割(2)
- 第8回 対象者の特性と支援内容について(身体障害者領域)
- 第9回 対象者の特性と支援内容について(精神・知的障害者領域)
- 第10回 対象者の特製と支援内容について(発達障害者領域)
- 第11回 就労支援の実際について(実務経験者: 酒井京子)
- 第12回 職業能力に対する評価について
- 第13回 ジョブコーチの役割と支援技術(1)
- 第14回 ジョブコーチの役割と支援技術(2)
- 第15回 事例を通じた就労支援の実際

■ 評価方法

科目試験(筆記試験)	◎	100	%	
レポート				
小テスト				
その他・備考	入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します			

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと

■ 教 科 書

書 名: 不要

■ 参考図書

書名：作業療法学全書 職業関連活動」

著者名：日本 OT 協会監修

書名：職業リハビリテーション入門

著者名：松為信雄

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

生活支援作業療法と両輪であることを意識して臨むこと

授業科目	日常生活活動学						
担当者	山田 隆人 (実務経験者)						
実務経験者の概要	診療所、訪問看護ステーションにて作業療法士として勤務 専門作業療法士 (作業療法士協会)、二級建築士免許証を有する。						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位	講義 形式	講義
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

作業療法は人の生活行為を広く社会の場において支援する。それら支援を行うには、ADL の概念を理解する必要がある。さらに、ADL 支援を行うためには、対象者の生活機能を評価、生活行為への支援方法を検討し、実施していく。本講義では、これら ADL の支援を行うための過程を学ぶ。

■ 到達目標

- ・ ADL について理解する
- ・ ADL 評価に関して一連の手続きについて理解する
- ・ ADL 支援計画立案の構造について理解する

■ 授業計画

- 第1回 作業時の筋活動と関節運動
- 第2回 日常生活活動の解析
- 第3回 運動を作業療法の応用する
- 第4回 運動時の重心をコントロールする活動
- 第5回 運動時の重心をコントロールする活動2
- 第6回 運動時の重心をコントロールする活動3
- 第7回 日常生活活動学概論
- 第8回 日常生活活動の支援
- 第9回 日常生活活動評価
- 第10回 日常生活活動の治療理論
- 第11回 更衣活動
- 第12回 更衣の支援方法
- 第13回 排泄活動
- 第14回 排泄活動の支援方法
- 第15回 入浴活動
- 第16回 入浴活動の支援

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				
レポート	◎	100	%	
小テスト				
その他・備考	講義内および講義外でのレポート課題を複数回設定する。 欠席の場合は、提出課題および内容の評点が加算されない。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。

■ 教科書

書名：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学

著者名：編集 濱口豊太

出版社：医学書院

書名：基礎作業学 第3版

著者名：編集 濱口豊太

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

人の運動を映像等で解析することを行います。スマホやカメラを使用します。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、実際の支援方法等を趣味レーションを行い確認します。運動しやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	作業療法研究						
担当者	OT 専任教員					(オムニバス)	
実務経験者の概要							
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	3単位	講義形式	演習
		開講時期	通年	選択・必修	必修		

■ 内 容

作業療法領域における具体的なテーマを設定し、研究計画を立て、それに沿って必要な情報や資料を収集し、整理し、結果を導き出さす。研究の基本手法を実践から学ぶ。その集大成を卒業論文として完成させる。研究の結果を報告する。

■ 到達目標

1. 作業療法における問題を科学的根拠に基づいて解決する姿勢と能力を高める
2. 卒業論文を完成させ、報告できる

■ 授業計画

第1回～15回 ゼミ単位で進行する
 オリエンテーション
 研究テーマの決定 / 先行研究論文の抄読
 研究計画書の作成
 研究データの収集
 収集したデータの整理・解析
 結果についての考察
 論文作成
 報告準備

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	課題の提出と内容 50% 論文内容 30% 報告姿勢（質疑応答を含む）と内容 20%			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

研究の進行に沿って、課題を仕上げ、ゼミではディスカッションによって考えをまとめることが出来るように準備すること

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。教員と連絡を密にとって研究を進めていくことが重要。

■ 講義受講にあたって

自らが興味を持って取り組んでいることなので、積極的であってほしい。

研究の大変さと楽しさ、達成感、さらには、作業療法の面白さ、大切さが実感できることを期待する

授業科目	臨床評価学実習 I						
担当者	OT 専任教員 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位	講義形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間（8月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法評価の実践を行う

■ 到達目標

1. 作業療法の実践と実施状況を観察し，記録できる
2. 作業療法評価の位置づけを理解できる
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る

■ 授業計画

第1回～15回
 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床評価実習（5日間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 30% 実習地での成績 30% 実習終了後の報告・報告書の内容 40% 実習前後の課題，実習地での成績，実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

授業科目	臨床評価学実習Ⅱ						
担当者	OT 専任教員 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	3単位	講義形式	実習
		開講時期	後期	選択・必修	必修		

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：3週間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法評価を行う

■ 到達目標

1. 作業療法評価の位置づけと過程がわかる
2. 対象者の作業療法評価（情報収集，検査測定，統合と解釈，作業療法プログラムの立案）が出来る
3. 上記を適切に記録できる

■ 授業計画

第1回～第30回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床見学実習（3週間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 30% 実習地での成績 30% 実習終了後の報告・報告書の内容 40% 実習前後の課題，実習地での成績，実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する			

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

授業科目	総合臨床実習 I						
担当者	OT 専任教員 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	8 単位	講義形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

1. 自宅内実習と学内実習を組み合わせる
2. 臨床評価学実習 II で経験した担当事例および教員が提示した実践事例 (paper patient) を基盤
 - ① ノート整理, 教員や学生とのディスカッション, テキスト等の確認により理解を深める
 - ② 作業療法計画および作業療法計画を立案し, 学内で実践する
3. 実習の全プロセスにおいて担当教員の指導とフィードバックを受ける

■ 到達目標

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度などの基本的資質を習得できた
2. 教員の指導のもと, 作業療法実践を経験できた
3. 作業療法評価計画を立案し, その一部を実施できた・情報の統合と解釈および作業療法計画が立案でき, 作業療法の一部を実践できた
4. 教員に必要な連絡報告ができた

■ 授業計画

- 1週目 : 自宅内実習 (8時間/日) 40時間
 2～5週間: 自宅内及び学内実習混合
 2～3週 自宅内8日 (8時間/日*64時間) 学内2日 (6時間/日*12時間)
 4～5週 自宅内6日 (8時間/日*48時間) 学内4日 (6時間/日*24時間)
 6～11週間: 学内実習30日 (6時間/日*) 180時間

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				
レポート				
小テスト				
その他・備考	総合臨床実習 I・II 達成基準 (ルーブリック評価表) に基づいて行う。 入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあります。評価方法を変更する場合には、科目担当者より別途連絡します。			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

1. 担当教員の指示に従うこと
2. 担当事例の理解を深めるため自主的に行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

4年次までに使用した教科書

■ 留意事項

自宅内実習時は特に学習時間管理を徹底すること

■ 講義受講にあたって

1. Paper Patientであっても自分の担当の方だという気持ちをもって取り組むこと
2. 日頃から健康管理に努め、決められた課題を決められた期間内で行うこと
3. 全体を通して、期限を守らない、必要な報告や連絡を行わない、実習場面での組み態度が不適切であると判断した場合、実習を中止する

授業科目	総合臨床実習Ⅱ						
担当者	OT 専任教員 (実務経験者)					(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者						
専攻(科)	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	8 単位	講義形式	実習
		開講時期	前期	選択・必修	必修		

■ 内 容

1. 実習前学習, 臨床実習, 終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設: 一般病院, リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間: 9 週間
4. 実習形態: 同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う

■ 到達目標

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度などの基本的資質を習得できる
2. 指導者の指導のもと, 一連の作業療法を実践できる
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる
4. 義務と責任および倫理観を修得できる

■ 授業計画

第1回～第30回 全体オリエンテーション
 実習前準備 (講義・演習・レポート)
 総合臨床実習 (4 週間)
 総合臨床実習学内演習 (1 週間)
 総合臨床実習 (4 週間)
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

科目試験 (筆記試験)				
レポート				
小テスト				
その他・備考	実習前後の課題 30% 実習地での成績 30% 実習終了後の報告・報告書の内容 40% 実習前後の課題, 実習地での成績, 実習終了後の報告・報告書の内容を基に総合的に判定する			

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って, 予習復習を行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め、特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して、身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合、また、無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する